



一九八四年在外研究報告

# 史料整理と検索手段作成の理論と技法

—— 欧米文書館の経験と現状に学ぶ ——

安 藤 正 人

## 目 次

### 一 在外研究の概要

a、訪問機関 b、調査研究事項

### 二 欧米文書館学の基礎理論

1 史料整理と検索手段作成の理論と技法をめぐる二つの伝統

2 史料整理の二つの原則Ⅱ「出所原則」と「原秩序（原配列）尊重の原則」

3 史料整理と検索手段作成の目的と方法Ⅱ「史料群の階層構造」の把握と制御

### 三 イギリスにおける史料整理と検索手段作成の現状

1 史料保存利用機関の類型

2 史料整理と検索手段作成の現状

a、「公文書史料の伝統」PATⅡ文書館学方式 b、検索手段の実際 c、「歴史的古文書の伝統」HMTⅡ図書館学方式

式

### 四 アメリカにおける史料整理と検索手段作成の歴史と現状

1 「公文書史料の伝統」PATと「歴史的古文書の伝統」HMTの相克

史料整理と検索手段作成の理論と技法（安藤）

- 2 a、一八〇〇—一九三六年 b、一九三六—一九五五年 c、一九五六—一九七九年  
史料整理と検索手段作成の現状

五 電算自動化システムの現状

- 1 文書館における電算自動化システムの応用分野  
2 記述と索引作成の自動化の問題点

六 おわりに

表(1) 「史料群の階層構造」(九一頁)

表(2) 図書と史料の整理業務の差違(九四頁)

表(3) 史料整理と記述のプロセス(一〇四頁)

表(4) 「二股システム」と「単一統合システム」(一二二頁)

表(5) 図書と史料のカタログ記述比較(一三五頁)

表(6) イギリスにおける文書館電算自動化システムの普及状況(一三七頁)

表(7) PROSPECのデータ収集過程簡略フローチャート(一三八頁)

資料(1) 「セント州議会(州庁)文書簡略目録一八八九—一九四五」(英)(二〇七頁)

資料(2) 「イースト・サセックス州立文書館簡略ガイド」(英)(二〇八頁)

資料(3) 「国立史料登録局件名索引項目表」「同、件名索引語彙一覽」(英)(一二二頁)

資料(4) 「オックスフォードシャー州立文書館個人寄託史料概要目録」(英)(一二二頁)

資料(5) 「ワシントン大学図書館史料コレクション」(米)(一二二頁)

- 資料(6) 『全国史料総合目録NUCCMC』(米)(一二四頁)
- 資料(7) 『議会図書館史料部所蔵フェリックス・フランクファーター文書目録』の「序説」(米)(一二九頁)
- 資料(8) 『同右』の「内容解題」(米)(一三〇頁)
- 資料(9) 『国立文書館所蔵一九六五年大統領就任委員会記録予備的目録』の「シリーズ記述」(米)(一三一頁)
- 資料(10) 『フェリックス・フランクファーター文書目録(前掲)』の「シリーズ記述」(米)(一三二頁)
- 資料(11) 『同右』の「箱別リスト」(米)(一三三頁)
- 資料(12) 英国立文書館PROSPECシステム基本データ・フォーム(英)(一四〇頁)
- 資料(13) 米議会図書館史料部MRⅡシステムのための辞書体カタログ・カード(米)(一四二頁)
- 資料(14) MRⅡの出力例(米)(一四三頁)

## 一 在外研究の概要

一九八四年八月一日から九月三〇日までの六〇日間、文部省短期在外研究員として英・仏・西独・米の四カ国を訪問した。研究課題は、「文書館における前近代・近代史料の保存利用システムに関する調査研究」というもので、多くの史料保存利用機関を訪れ、大きな成果を得た。訪問機関と日程は次の通りである。

a、訪問機関(※印は、資料収集のみで内部見学をしていない機関)。

『イギリス』八月二日～九月一日

### (1) 国立機関

国立文書館(ロンドン) Public Record Office

英国図書館西洋史料部(ロンドン) British Library, Dept. of Western Manuscripts

史料整理と検索手段作成の理論と技法(安藤)

同、東洋史料刊本部 (ロンドン) British Library, Dept. of Oriental Manuscripts and Printed Books  
同、旧インド省図書記録部 (ロンドン) British Library, India Office Library and Records  
国立史料登録局 (ロンドン) National Register of Archives

スコットランド国立図書館史料部 (エジンバラ) National Library of Scotland, Dept. of Manuscripts  
ウェールズ国立図書館史料記録部 (アベリストヴァー) National Library of Wales, Dept. of Manuscripts and Records

(2) 大学機関

リバプール大学文書館 (リバプール) The University of Liverpool, Archives Unit  
オックスフォード大学ボードレイ図書館西洋史料部 (オックスフォード) The University of Oxford, Bodleian Library, Dept. of Western Manuscripts

(3) 州立機関

ケンブリッジシャー州立文書館 (ケンブリッジ) Cambridgeshire County Record Office  
イースト・サセックス州立文書館 (ルイーズ) East Sussex Record Office  
※ケント州立文書館 (メイドストーン) Kent County Record Office  
※ハンプシャー州立文書館 (ウインチェスター) Hampshire Record Office

(4) 市立機関

チェスター市立文書館 (チェスター) Chester City Record Office  
ロンドン市ギルドホール図書館史料部 (ロンドン) Guildhall Library, Manuscripts Department

ウェストミンスター市立図書館文書部 (ロンドン) Westminster City Libraries, Archives Department

(5) 教会機関

カンタベリー大寺院図書館文書館兼市立文書館 (カンタベリー) Canterbury Cathedral, Library and Archives and City Record Office

ヨーク大寺院図書館文書部 (ヨーク) York Minster Library, Archives Department

(6) 企業機関

英国鉄鋼会社本社 (ロンドン) British Steel Corporation, Head Office

同、アースリンバラ記録センター (ウェリンバラ) Irthlingborough Record Centre

ミッドランド銀行本社 (ロンドン) Midland Bank, Head Office

〔フランス〕九月一二日～一六日

国立文書館 (パリ) Archives Nationales

〔アメリカ〕九月二六日～二九日

国立文書館 (ワシントン) National Archives

議会図書館史料部 (ワシントン) Library of Congress, Manuscripts Division

なお、九月一七日～二二日の五日間は、西ドイツの首都ボンで開催された「第一〇回文書館国際会議」X International Congress on Archives Bonn 1984に参加する機会を得た。この会議については、別に「文書館学とアーキビスト養成への取り組みを——第一〇回文書館国際会議に参加して——」と題する参加記を『歴史学研究』第五四六号 (一九八五年一〇月) に掲載したので、参照していただければ幸いである。<sup>(1)</sup>

b、調査研究事項

各訪問機関での調査研究は、英語力の問題もあるので事前にかなり詳しい質問事項シートを用意しておき、それに沿う形でおこなった。質問事項シートの項目だけをあげると次の通りである。なお、これの作成にあたっては、マイケル・クック著『文書館学——中小機関と地方行政体のためのマニュアル』<sup>(3)</sup>を参考にした。

(1) 機関設立の目的と組織

① 沿革、② 現在の組織構成、③ スタッフとトレーニング・システム、④ 予算、⑤ 史料受入の方針、⑥ 主な収蔵史料

(2) 記録センター（中間的記録集中保存施設<sup>(3)</sup>）の運営と機能

(3) 記録の評価と処分

① 評価・選択の基準、② 評価責任者、③ 処分の方法

(4) 史料の文書館への受け入れ

① フィールド・ワーク、② 史料移管の方式、③ 受け入れ手続きと初期的処置

(5) 文書館史料の整理と記述

① 整理の原則、② 番号付与の方法、③ 検索手段の種類と作成技法

(6) 文書館史料の保存と修復

① 保存庫の設備、② 収納スペース、③ 保存庫の環境制御、④ 保存庫の安全設備、⑤ 史料の保存・修復技術と技術スタッフ

(7) 文書館史料の利用

①利用者統計、②保存庫への立入り、③閲覧室の設備

(8) 文書館のその他の機能

①教育文化機能、②他の類似機関との関係、③将来計画、特にコンピューター・システム導入の問題

以上であつたが、本稿では右の各項の内、(5)「文書館史料の整理と記述」の問題に絞り、訪問各機関において入手した資料と若干の文書館学の研究文献・手引書類に依りながら欧米(英米)の現状を紹介してみたい。ただ、言うまでもないことだが、筆者が目を通した資料・文献はまことに微々たるものであるし、そもそも欧米の史料そのものに全くなじみがないわけだから、以下の紹介には不正確な点や誤まりが多々含まれているのではないかと危惧する。そうした部分は今後の勉強によって訂正するとして、以下はとりあえずの見聞記であるという程度にお考えいただきたい。

なお、実際に各機関を訪問した際には、右の質問事項の内、(6)「文書館史料の保存と修復」、特に、⑤の史料の保存・修復技術、について得るところが大きかった。欧米の史料保存機関には、どんな小さな機関にも整理管理専門職員であるアーキビスト archivist のほかに史料の修復を専門にするコンサーベーター conservator と呼ばれる技術者がおり、専用の補修室を持っている。保存・修復技術の研究開発も盛んで、補修室を訪れると、コンサーベーターは例外なく熱っぽい口調で自らの技術を語り、時には実演してみせてくれたのである。それらのことも報告したいが、これは機会があれば別稿の形で果たしたいと思う。

\* (補註) 言うまでもないことだが、本稿でいう「史料」とは、文書館が収集・保存・整理・管理の任を担う、文書史料を中心とする記録史料のことであり、遺物史料や民俗史料などは対象の外にある。従って、厳密には、いちいち「文書史料」「記録史料」あるいは「文書館史料」と書くべきであるが、煩雑なので、単に「史料」と記した場合が多いことを、あらかじめお断



わりしておく。

## 二 欧米文書館学の基礎理論

### 1 史料整理と検索手段作成の理論と技法をめぐる二つの伝統

今回の在外研究で感じた印象のひとつに、欧米史料保存利用機関の多様性ということがある。これは、国や地方行政体のみならず大学や企業・教会などさまざまな機関に史料保存利用施設がある、ということだけではない。前掲の訪問機関一覧を見てもわかるように、独立の文書館でなく図書館の一部局として存在する史料保存利用施設の比重が意外に高いのである。欧米では文書館制度が日本などにくらべはるかに整備されているのは事実だが、必ずしも文書館がすべての史料を集中的に保存しているわけではない。

英国では、州立文書館 county record office や市立文書館 city record office のレベルだと、州や市の行政史料だけでなく企業・団体・教会・個人のさまざまな民間史料を広く受け入れているが、国立文書館 Public Record Office は原則として中央政府と裁判所の史料の保存利用機関として存在しており、歴史的に重要な民間史料については、英国図書館や大学図書館の史料部門 department of manuscripts の役割が大きい。

米国でも、国立文書館と議会図書館史料部という国立二機関を見た限り、前者が原則として政府機関の行政史料を扱うのに対し、大統領をはじめとする各界の重要人物が保有していた個人史料は後者が扱うというように、両者の役割分担はかなりはっきりしているようであった。

英国にせよ米国にせよ、厳密な意味での文書館 archives, archival agency、(英) record office とは、「アーカイブズとしての史料、すなわち組織や機関の非現用記録のうち継続的価値のゆえに保存されるもの、を選択し、保存し、利用に供する機関」<sup>(6)</sup>を言う。従って、必ずしもアーカイブズとしての性格を持たないと考えられてきた家や個人の史料(最近ではその多くがアーカイブズと考えられるようになってきた——後述)や一点一点バラバラに収集された古文書などは「アーカイブズ」と区別して「マニユスクリプト」manuscript(s)と総称され、これらを主に収蔵する図書館史料部などの史料保存利用施設は、マニユスクリプト・ライブラリー manuscript(s) library とか マニユスクリプト・リポジトリ manuscript(s) repository と呼ばれて、狭義の文書館とは区別されてきたのである。

この両者の間には、所蔵史料の性格の違いや史料保存利用機関としての機能の違いに由来する、史料整理理論と検索手段作成技法上の、異なった伝統が存在した。アメリカの大学アーキビスト、リチャード・C・バーナーは、最近出版した『アメリカにおける文書館学の理論と技法——その歴史的分析』<sup>(7)</sup>という本の中で、この二つの伝統を次のように表現している。

① Public Archives Tradition, PAT (公文書史料の伝統)

② Historical Manuscripts Tradition, HMT (歴史的古文書ないし手稿史料の伝統)

要するに、①PATとは、近代的な文書館が一七八九年のフランス国立文書館を嚆矢として欧米諸国に成立したのち、そこで育まれた「パブリック・アーカイブズ」すなわち公文書史料を中心とする史料整理管理法の伝統を言うのに対し、②HMTとは、図書館の史料部門などで行なわれてきた、「マニユスクリプト」すなわち歴史的古文書や手稿史料の整理管理法の伝統を言うのである。そして、バーナーによれば、HMTの基盤は、図書館学の理論と技法にあったとされる。

さて、現在の欧米における純文書館的な史料保存利用施設と図書館史料部的な史料保存利用施設との間には、たしかに右の二つの伝統の差に由来する史料整理管理法の違いが残っているものの、「公文書史料の伝統」PATに基づく文書館的方式は、すでに図書館史料部のようないわゆるマニエスクリプト・リポジトリでも広く採用されるに至っている（特にアメリカでは）。これは、現在の文書館学 Archives Administration, Archival Studies が、単に公文書史料だけを対象にしたものではなく、いわゆる「歴史的古文書」historical manuscripts や「民間史料」private papers など、従来「歴史的古文書の伝統」HMTにもとづく図書館方式の下で扱われてきた分野をもカバーしうる、より普遍的な史料整理管理論として確立してきているためである。そしてもちろん、その背景には、PATがHMTとの長い相克を経てこれを凌駕し、これを包含していく歴史過程が存在する。バーナーの著書は、こうした構図でアメリカの「文書館学史」を綴ったものだが、これはイギリスにおける文書館学の発展の歴史と現状を考える上でも、ある程度有効な構図ではないかと考える。以下、本稿でも積極的に利用させてもらうことにしたい。

\* (補註) 文書ないし文書史料を意味する英語には、「レコード」record、「アーカイブズ」archives、「マニエスクリプト」manuscript、「ペーパー」paperなどいろいろあつて、これらをどう訳し分けるかは今後慎重に検討しなければならない。本稿では必ずしも訳語を統一しておらず、そのままカタカナで表記した場合も多いので、一応参考までに文書館国際評議会ICAの編纂した『文書館用語辞典』(注⑨)によって、主な用語の一般的な定義を紹介しておきたい。

RECORD(S) 「事業所・機関・組織あるいは個人が、法的義務を遂行したり業務を執行したりするにあたって、形状や媒体の如何を問わず、作成され、受領され、保管される記録された情報 information (文書 document(s) のこと)」

つまり、いわゆる「現行記録(現用文書)」current record(s)から「非現行記録(非現用文書)」non-current record(s)までをおおう概念で、広い意味では次に掲げる「アーカイブズ」をも含むと思われる。ポイントは、法的義務の遂行や業務執行といった組織化された行為の産物であるという点であらう。本稿では一般に「記録」という訳をあてているが、「レコード」とそのまま訳したり「史料」と訳した場合もある。

ARCHIVES 「非現用記録 non-current records のうち、永久保存文書の価値 archival value (無期限ないし永久保存に足る、行政的・財政的・法的・証拠的ないし情報的な価値) を有するがゆえに、その作成当事者によって、あるいは職務上の利用のために作成当事者の機能を引き継いだ後任者によって、あるいは適当な文書館によって、選択的もしくは選択抜きに保存される非現用記録のこと。」

つまり、archives とは前掲の records の内、史料として永久保存されるものであることであって、やはりポイントは、法的義務の遂行や業務執行といった組織化された行為の産物であるという点にあり、古い史料なら何でも archives であるというわけではない。これに「文書」とか「保存記録」とかの訳語を与える案もあるが、いずれも熟していないし私見もまともっていないので、本稿では「アーカイブズ」とカタカナにしたり、「文書館史料」、「史料」あるいは「文書」と訳したりしつつ一定しない。

MANUSCRIPT 「手書きやタイプ書きによる文書 document」

MANUSCRIPT COLLECTION 「手書き・タイプ書き文書 manuscripts の集合体 collection で、通常、歴史的ないし文学的価値を有するもの。しばしば、アーカイブズ的なもの archival material と区別して、非アーカイブズ的なもの non-archival material を指す場合に用いられる。」

manuscript は「手稿史料」とか「手書き本」などと訳されることが多いが、manuscripts と複数になったり manuscript collection という場合には、文書館学的には右の訳語ではやや不十分である。つまり、ポイントは手書きということではなく非アーカイブズ的な史料というところにあるのである。一般的には、有機的な統一性を持たない蒐集コレクションや、特別な重要性を持つために収集された個別的な古文書などがこれにあたる。ところが、アメリカでは必ずしもそうではなく、むしろ個人や家のアーカイブズ、つまり次の PAPERS とほぼ同義に使われることが多い。本稿では「マニユスクリプト・コレクション」などとカタカナのままにしているが、場合により、「手稿史料」も使用している。

PAPERS 「法人団体の records ないし archives と区別されるものの、個人や家 (および地主) の records ないし archives のこと」

この語も、以前に出されたアメリカ・アーキビスト協会の定義集 (注⑥参照) では、「自然的に蓄積された個人や家の資料 materials の records とは区別されるもの」と、むしろその非アーカイブズの、非レコード的性格が強調されていた

の対し、ICAの定義では右のように変わっている。これについても本稿では特定の訳語をあてずに、「史料」「記録」「文書」とさまざまに訳している。

以上のほか、文書館学用語については問題点が山積しているが、その一端を示す意味もこめて、とりあえず最低限の用語について記しておいた。

## 2 史料整理の二つの原則Ⅱ「出所原則」と「原秩序（原配列）尊重の原則」

PATの基礎となり、現在の文書館学でもなお土台としての位置を占めているのは、「出所原則」と「原秩序（原配列）尊重の原則」という二つの基本原則である。その定義をアメリカの著名な文書館学者T・R・シェレンバークの『文書館管理論』<sup>(8)</sup>と、文書館国際評議会 International Council on Archives, ICAの編集した最新の『文書館用語辞典』<sup>(9)</sup>によって見ると、次の通りである。

### ①「出所原則」 Principle of Provenance

「記録 records は、それが組織体や組織的活動のいかなる出所 source から出たものであるかがわかるように整理されなければならない。」（『文書館管理論』<sup>(10)</sup>）

「同じ出所 provenance（記録 records / 史料 archives を業務遂行の過程で作成し、蓄積し、保存してきたところの事業所・機関・組織ないし個人）を持つ記録／史料は、他の出所を持つ記録／史料と混合させてはならない、という原則」（『文書館用語辞典』<sup>(11)</sup>）

### ②「原秩序（原配列）尊重の原則」 Principle of Respect for Original Order, Registry Principle

「アーキビストは、史料小群（シリーズ）の中で個々の文書がもとと与えられている秩序（配列）が、組織的活

動を反映しているものである場合には、そのもとの秩序（配列）を残さなくてはならない。」（『文書館管理論』<sup>(12)</sup>）  
「一つの出所を持つ史料群は、（史料相互の間に）存在する関連性や、（元の）検索番号を保存するために、それを生んだ事業所・機関・組織によって行われた整理をそのまま残すべきである、という原則」（『文書館用語辞典』<sup>(13)</sup>）

「出所原則」が最初に形をあらわすのは、フランスである。<sup>(14)</sup> フランス革命直後、一七八九年に成立する国立文書館 Archives Nationales は、ヨーロッパ最初の近代文書館として知られているが、一八三九年までは出所に関わりなく主題による史料の分類整理が行なわれていた。これに対し、一八三九年から四一年にかけて「フォーンの尊重」*Respect des Fonds* の原則が打ち出され、一八四一年の内務相回章「省庁および市町村史料の整理分類の指針」によって次のように規程化されることになる。

「記録はフォーン *fonds* にグループ化されるべきである。すなわち、行政庁であれ企業体であれ一族であれ、ある特定の組織に起源を持つ記録はすべて一緒にグループ化され、その組織のフォーンとみなされるべきである。」  
フォーン *fonds* とは、「資金」「貯え」などの意味を持つ言葉だが、ここでは同じ出所を持つ史料群を指しており、「フォーンの尊重」とは「出所原則」にはかならないことがわかる。

フランスの「フォーンの尊重」を基礎に、これをより鮮明に打ち出したのはプロシアである。すなわち、一八八一年に著名な歴史家でプロシア国立文書館長のハインリッヒ・フォン・シベルが、「国家文書館内における文書秩序編成に関する規則」の中で「出所原則」*Provenienzprinzip* という言葉を使っているのがこれである。「原秩序（原配列）尊重の原則」*Registraturprinzip* を最初に言明したのも同規則の功績である。すなわち、フランスのシステムが、フォーンの内部では依然として主題分類方式をとったのに対し、プロシアのシステムは、「出所原則」と「原秩序

（原配列）尊重の原則」とが結びついて、記録発生源の組織と機能をより正確に反映する方法をとったのである。

二つの原則はオランダにも影響を及ぼすところとなり、一八九八年にはこの二つの原則にもとづいて書かれた世界で最初の本格的な文書館学手引書『文書館史料の整理と記述のためのマニュアル』<sup>(16)</sup>が刊行されている。イギリスでは、一九二二年にヒラリー・ジェンキンソンが出した『文書館学概論』<sup>(16)</sup>が、これらの基本原則をまとめた業績として知られている。

このように、「出所原則」と「原秩序（原配列）尊重の原則」は、既に一九世紀後半にはヨーロッパにおいて確立していたが、なぜこの原則が重要なのか。シェレンバークの述べるところを意識すれば、主な理由は次の二点である。<sup>(17)</sup>  
「記録／史料がそこに書かれていることがらに関して持っている証拠的価値は（ないし、少なくともその一部分は）、その記録／史料がいかなる道筋で発生せしめられたかということに由来している。つまり、その記録／史料がいかなる『出所』を持ち、いかなる『原秩序』つまり他の記録／史料との関連性の中で保存されてきたかということが、その記録／史料の証拠的価値を高める上で重要である。従って、そうした『出所』や『原秩序』に関わりなく、内容事項やその他の恣意的なシステムのもとで整理されてしまうと、その価値は極めて大きく損なわれることになる。」

「図書は、まさにそこに書かれている主題について説明し主張するために作られるが、記録／史料はそうではなく、通常、何らかの目的を持った組織的活動の遂行のために作成される。つまり、記録／史料の本質は、いかなる者の、いかなる目的を持った、いかなる行為に関わって発生せしめられたかという、その発生事情の中にあり、それは『出所』と『原秩序』の中に反映されている。従って、『出所』と『原秩序』に関わりなく、書かれている内容の主題によって整理することは、記録／史料の本質にとっては異質のことに属する。」

第一点は、要するに素性の明確でない史料は信憑性が薄いということとはほぼ同じことを言っているであり、納得できる理由である。しかし、より根本的なのは第二点である。ここでは史料の本質の正しい認識のために「出所原則」と「原秩序（原配列）尊重の原則」が不可欠であることを主張しているのである。たとえば、シェレンバーグが別のところで述べている例を引用して言えば、ある個人史料の中に一通のラブレターが含まれている場合と、それと全く同内容のラブレターの写しが離婚訴訟記録の一部として裁判所史料の中に含まれている場合とでは、内容上主題が同じといえども本質が異なるのである。すなわち、前者は私信であることが、そして後者は裁判記録であることが本質であり、史料の第一義的な価値を決定するのである。これと似た実例は、我々が日頃扱っている日本の近世・近代史料の場合にもしょっちゅうある。たとえば、明治期の土地所有権をめぐる訴訟の際に、近世の検地帳や土地証文の写しが作られることは珍しくないが、これらの史料はあくまで近代の訴訟記録であって、「検地」とか「土地」とかの主題のもとに近世の検地帳や土地証文と一括するわけにはいかないものである。

### 3 史料整理と検索手段作成の目的と方法Ⅱ「史料群の階層構造」の把握と制御

「出所原則」と「原秩序（原配列）尊重の原則」という史料整理の二大原則は、文書館史料 archives は「群」として存在するという視点、言いかえれば、史料は一点一点が個々バラバラの孤立した存在としてあるのではなく、相互に関連性を持った「文書群」「史料群」として存在するという視点と表裏一体である。この場合、最大の史料群は、出所を同じくする史料の塊を指すわけであるが、通常その内容はいくつの中レベルの史料群に分かれ、さらにそのひとつひとつがいくつかの小レベルの史料群に分かれている。こうした史料群のピラミッド型の構成は、それを生んだ機関や個人の組織と機能を反映したものであり、「史料群の階層構造」*hierarchy of records, record level*



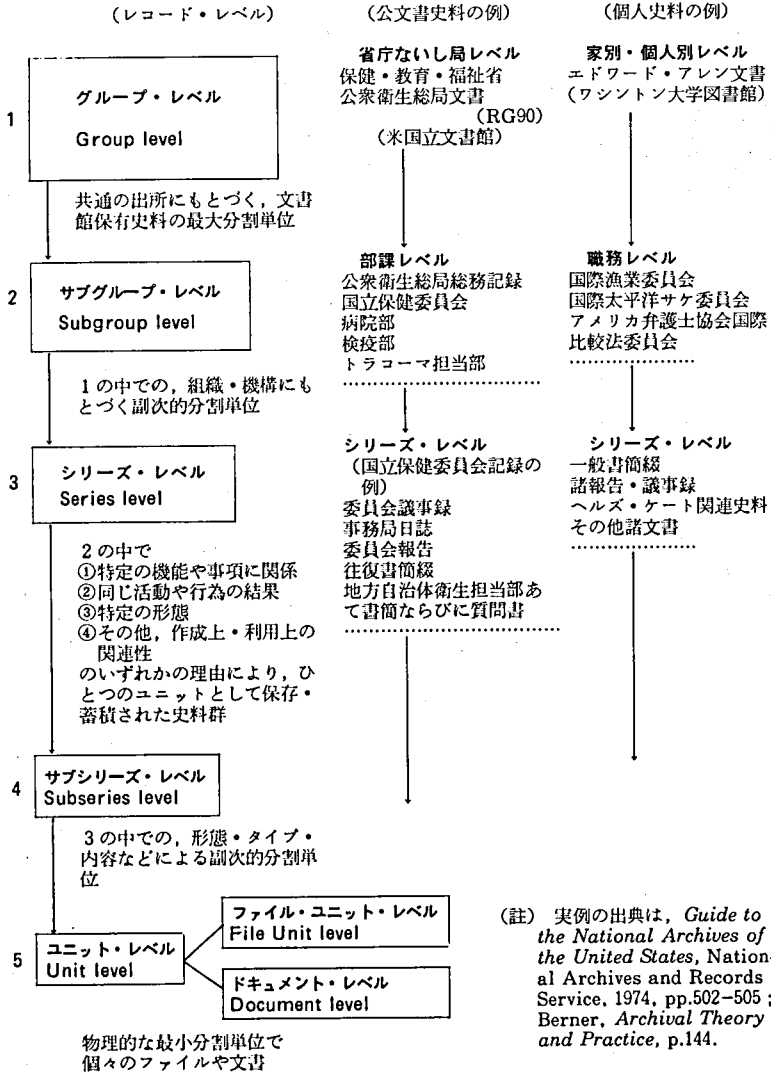
hierarchyと呼ばれている。逆に言えば、「史料群の階層構造」という内的秩序に有機的統一性を持っていることが、いわゆるアーカイブズの本質であると考えられているのである。前述したように、家や個人の史料は、古くはしばしばアーカイブズとは異なるという意味で「歴史的古文書」とされ、図書館的な史料整理の伝統(HMT)のもとに置かれてきたのであるが、現在ではむしろアーカイブズとしての性格の方が強調されるようになってきている。その最大の理由は、家や個人の史料も多くはこうした有機的な「史料群の階層構造」を有している、という点にあるのである。

「出所原則」と「原秩序(原配列)尊重の原則」にもとづく史料整理とは、結局のところ、「史料群の階層構造」を再構成し、呈示することにほかならない。その方法による整理こそが、史料の適切な管理的制御 administrative controlと頭腦的制御 intellectual controlを可能にするのである。なぜなら、それ以外のシステム——たとえば主題による分類整理——では、個々の史料の中味の情報は伝えられるが、「史料群の階層構造」という構造それ自体の中に表現されている筈の、史料相互の関連性に関する情報は伝えることができないからである。それは、個々の史料の中味の情報をも誤まって解釈することにつながりかねない。ジェンキンソンは、こうした意味で、「出所原則」と「原秩序(原配列)尊重の原則」にもとづいて、「史料群の階層構造」を再構成し呈示することは、史料を「道義的に守ること moral defenceである、と言っている」<sup>(18)</sup>。

「史料群の階層構造」は、もちろんいつの場合にも同じ形をとるというわけではないが、現在では、概念的なワク組みとして、表(1)のような五段階の史料群レベル record levelを考えるのが一般的のようである。<sup>(19)</sup> 最大構成単位を成す「グループ・レベル」は、国によっても異なるが、公文書史料であればほぼ省庁レベル、あるいは大きな省庁であればその下の局レベルの史料群を指すと考えればよく、これを英国では「アーカイブ・グループ」、米国では「レコード・グループ」と呼んでいる。家や個人の史料の場合は、日本のいわゆる「家わけ」が「グループ・レベル」に相

表(1)「史料群の階層構造」 Record Level Hierarchy

史料整理と検索手段作成の理論と技法 (安藤)



(註) 実例の出典は、Guide to the National Archives of the United States, National Archives and Records Service, 1974, pp.502-505; Berner, *Archival Theory and Practice*, p.144.

当し、米国ではこれを一般的に「コレクション」と呼ぶことが多い。<sup>(20)</sup>「サブグループ・レベル」は、公文書史料ならば部課レベル、家や個人の史料の場合はたとえ表(1)の事例のように、その個人が関係した職務ごとの史料群レベルがそれにあたる。次に、「シリーズ・レベル」とは、「サブグループ」の中で、①特定の機能や事項に関係するか、②同じ活動や行為の結果か、③特定の形態を持つか、④その他、作成上・利用上の何らかの関連性を持つか、のいずれかの理由によってひとつのユニットとして組織的に保存・蓄積されてきたもの<sup>(21)</sup>である。英米の実例をみると、「シリーズ・レベル」とされているのは、部課レベルよりもうひとつ下の係とか委員会とかの史料群であるか、「往復書簡綴」「会計関係綴」「庶務関係綴」といった、毎年度ごとに作られ蓄積されるような史料群であるかのいずれかにほぼ分かれるようである。「サブシリーズ」は文字通り「シリーズ」の副次的な分割単位。そして最後に「ユニット」が来る。「ユニット」とは、物理的にそれ以上分割できない(分割してはいけない)単位を言い、史料整理番号上の一点とは通常この「ユニット」を指すらしい。多くの場合、「ユニット」は冊子 volume や仮綴 folder の形をしているのでこれを「ファイル・ユニット」と呼び、その中に含まれる一通一通の文書を意味する「ドキュメント・レベル」と区別することもある。

以上の五つの史料群レベルをみると、「グループ」「サブグループ」の上位二つと、「シリーズ」以下の下位三つの間には、レベル認識のしかたに差があることがわかる。すなわち、上位二つは、「出所」||組織・機構を直接の基準として把握されたレベル(=organic level)であるのに対し、下位三つは、「原秩序(原配列)」すなわち機能や形態にもとづく論理的な史料群秩序を基準にして把握されたレベル(=logical level)として設定されているのである(但し、「シリーズ・レベル」については、organic level とみなしうる場合があるように思うが)。この、組織・機構基準↓機能・形態基準という方向でレベル序列を設定する考え方は、公文書史料や企業史料の場合だと実態に即した最も理

にかなった考え方であると直ちに納得できるが、むしろミソは、家や個人の史料にもこうしたレベル序列を適用しようとしている点にあるだろう。もともとはっきりした内部組織など持たない家や個人の史料にあっては、「史料群の階層構造」は見る側の論理によっていかようにも立てられそうに思える。しかし、たとえ一個人の史料であっても、そのひとつひとつは彼／彼女が関わった何らかの組織・機構（彼／彼女自身の私的生活もそのひとつに含めて）とのつながりの中で作成され、伝存しているのであり、あくまで組織・機構↓機能・形態というレベル序列の中で「史料群の階層構造」を把握すべきだという考え方が、現在の欧米では強い。この場合、表(1)のエドワード・アレン文書の事例にみるように、その個人が歴任した役職を第一の基準として考えるのが、最も一般的のようである。

さて次に、史料整理と検索手段の作成がどのような手順で進められるかについては、具体的な話は後述するとして、ここでは図書の整理業務との比較で、史料の整理業務の特徴を簡単にみておくに留めたい。

第一に、図書整理の対象は原則として一冊一冊の独立した図書であるのに対し、史料整理の対象は通常、「史料群の階層構造」を内部に有した「グループ」である。従って第二に、整理の方法は、前者があらかじめ用意された分類表に従って一冊一冊の図書を分類していくのに対し、後者ではそのような分類表はあり得ず、「出所原則」にもとづく組織・機構基準の発見と、「原秩序（原配列）原則」にもとづく機能・形態基準の発見という作業を通じて、各「グループ」がそれぞれ独自に有している「史料群の階層構造」を再構成していくことが整理となる。欧米文書館学では、この両者の作業過程の根本的相違を明確に示すため、史料の「分類」classificationという表現をあえて避け、arrangement（「構成」ないし「整理」）という用語を使っている。第三に、史料の整理業務（＝構成 arrangement）は、「グループ」全体の概要調査から「シリーズ」の把握へ、そしてさらに「ユニット」へとというように、粗から精へと段階的に深化するという特徴を持つ（バーナーは、これを「段階的精密化制御」 progressively refined controls

表(2) 図書と史料の整理業務の差違

	図 書 整 理	史 料 整 理
整理の対象	一冊の独立した本	「史料群の階層構造」を内包したグループ(コレクション)
整理の方法	分類 classification	構成 arrangement
整理/記述の作業段階	単一 = 一回性	多様 = 段階的精密化
記述方式	一点ごと目録化 item cataloging	集団的記述方式 collective (= group) description

(22)

と呼んでいる)。その結果、整理の過程で行なわれる記述作業(リストなどの、管理・検索手段の作成作業)も、概要リストのような粗レベルのものから、一点ごとのリストのような精密レベルのものへと、段階的に高められていくのである。(一〇四頁表(3)参照)。ただ重要なのは、記述作業の目的が「史料群の階層構造」の呈示にある以上、一点ごとの精密リストは、最終的な到達点としてそれを目指すことを否定はされないが、必ずしも一番重要な目録としては考えられていないことである。むしろ、「シリーズ・レベル」に焦点をおいた、史料群単位の集団的記述方式 collective description の方が、一点ごとの記述方式 item description よりも「史料群の階層構造」を示すのに都合がよい、というのが基本的な考え方なのである。同時に、史料の量からくる物理的な制約も大きな要因である。史料群単位の集団的記述方式による目録を基本目録としない限り、膨大な受入史料の全体をコントロールすることは難しい、というわけである。

いずれにせよ、右に述べたような、整理業務の段階的精密化と、それに対応した多様なレベルの検索手段(これを総称して finding aids という)の存在は、一冊ごとの分類作業 classification と一冊ごとの目録作業 item cataloging という単純な工程から成る図書の整理業務と比べると、かなり複雑なものである。この違いを示すため、欧米文書館学では、目録等の検索手段

作成を意味する用語についても図書館的な「目録作業」cataloguingを避け、より幅の広い「記述作業」descriptionという言い方を選ぶ傾向にある（図書館学でも「記述」という用語があるが、これとは意味が異なる）。

以上をまとめると、表(2)のようになる。

### 三 イギリスにおける史料整理と検索手段作成の現状

#### 1 史料保存利用機関の類型

筆者が訪問したイギリスの史料保存機関は、最初にその一覧を示したように、設置者別に分けると、(1)国立、(2)大学、(3)州立、(4)市立、(5)教会、(6)企業、の六種類であり、主な設置者はだいたいこういったところであろうと思う。このうち、教会機関と企業機関はちよつと脇に置いておくとして、残りの行政体および大学の史料保存利用機関を、「公文書史料の伝統」PAT、「歴史的古文書の伝統」HMTの二つの尺度で計ると、PATを代表するのは言うまでもなく国立文書館 Public Record Office, PROであり、HMTを代表するのは英国図書館 British Library, BLをはじめとする国立図書館の史料部門、およびオックスフォード大学ボードレイ図書館のような歴史の古い大学図書館の史料部門である、ということができよう。筆者の印象では、州立文書館 county record officeや市立文書館 city record officeなどの地方文書館 local record officeは、その中間的な位置にあるようであった。この仮に立ててみた三つの類型は、何よりも所蔵史料の性格の違いによる。代表機関の所蔵史料の概要を各々一機関ずつあげよう。<sup>(24)</sup>

〔国立文書館 Public Record Office, PRO〕

国立文書館は一八三八年に設立された、連合王国政府記録およびイングランド・ウェールズ両法廷記録のための史料保存利用機関である。史料受け入れは公文書法 Public Record Act によっており、王室記録・スコットランドおよび北アイルランド政府記録・地方行政庁記録・個人史料などは、受け入れ対象外となっている。一〇八六年のドゥームスデイ・ブックを最も古いものとして、一九八四年一月現在、所蔵永久保存史料の総書架延長は 441,800 フィート (134,750 メートル) に及ぶ。このほか、ヘイズという所にある記録保管センターには、五四の政府各部局の半現用記録 1,137,000 フィート (346,600 メートル) が保管されている。

〔イースト・サセックス州立文書館 East Sussex County Record Office〕<sup>(26)</sup>

イースト・サセックス州は、イングランド南部にある人口七〇万人余りの州で、イングランド五八州の中では中規模である。所蔵史料の書架延長は約二、一〇〇メートルと比較的短い、ほかに州庁各部局に未移管の史料三千ないし四千メートル分があり、さらに相当規模の記録保管センターを持っている。文書館の所蔵史料の概要は次の通りである。

### ① 公文書指定記録

四季裁判所(州)、他の(州以外) 四季裁判所、簡易裁判所、州長官、王室財産管理官、遺言検認裁判所、十分の一教区税記録、学校建築認可、病院、海運業・海員登録簿、内国税収入、保険委員会、自動車税

### ② 地方行政庁記録

州議会(州庁)、市町議会(市町庁)、郡議会(郡庁)、救貧委員会、行政教区会

### ③ 法定公共機関

学務委員会、埋葬委員会、ガス委員会、河川委員会、港湾委員会



国立文書館  
Public Record Office  
(ロンドン, キュウ)



国立史料登録局 National  
Register of Archives  
(ロンドン)



イースト・サセックス州立  
文書館 East Sussex  
Record Office (ルイーズ)



イースト・サセックス州立  
文書館史料保管庫



イースト・サセックス州立  
文書館の 整理中の史料

ギルドホール図書館  
Guildhall Library (ロンドン) の史料保存修復室



④行政教区記録

⑤非国教徒記録

⑥民間寄託史料

地主・家史料、弁護士記録、企業史料、付加史料、任意団体、サセックス農会、イースト・サセックス盲人協会

⑦蒐集コレクション

版画・絵画・写真・葉書、ポスター・ビラ・刷り物、売り出し明細書、印刷地図、陸地測量地図

⑧付属図書館所蔵分

マイクロフィルム、複写史料、英国国法、人名録、ガイドブック、政府青書

右のように、州や市町の行政公文書史料だけでなく、中世以来の教区記録や民間史料を多数持っているのが、地方文書館に共通した特徴のようである。PATとHMTの両方の伝統が地方文書館に存在すると言ったのは、このためである。図書館の史料部門の中にも、一部これと同じような性格を持った所がある（筆者の訪れた機関では、たとえばギルドホール図書館史料部やウエストミンスター図書館文書部）。

〔オックスフォード大学ボードレイ図書館 Bodleian Library〕<sup>(26)</sup>

正式開館が一六〇二年というこの歴史の古い図書館は、蔵書規模でもイギリスでは英国図書館に次いで第二位である。西洋史料部 Department of Western Manuscripts は、書架延長約八マイル（約13,500メートル）という膨大な史料を所蔵するが、その主なものは次のようである。

①主として個人コレクションに成る、ギリシャ史料、パピルス文書、ヨーロッパ中世史料、②一七一一八世紀の家史料・個人史料（政治家・文学者など）、③音楽史料、④勅許状および記録簿、⑤オックスフォード司教・遺言検

認裁判所・教区記録、⑥版画・絵画、⑦オックスフォード大学学位論文、⑧カレッジ寄託史料（カレッジ所蔵古文書、カレッジ・アーカイブズ）、⑨個人寄託史料

右のように、中世史料を中心とした蒐集コレクションや民間史料など、いわゆる「歴史的古文書」historical manuscriptsが中心であり、国立文書館や地方文書館のように現代公文書史料を継続的に受け入れていないのがこの図書館西洋史料部の特徴である。英国図書館西洋史料部やスコットランド、ウェールズの国立図書館史料部も、所蔵史料の範囲にもちろん差はあるが、基本的な性格はこれと似たものであろう。なお、オックスフォード大学の場合、大学の公文書史料は大学文書館Oxford University Archivesがこれを受け入れ、保存している。

以上を予備知識として、本章の本題に入ろう。

## 2 史料整理と検索手段作成の現状

### a、「公文書史料の伝統」PATII文書館学方式

イギリスにおいて、「公文書史料の伝統」にもとづき史料整理と検索手段作成の理論と技法を最初に体系化したのは、国立文書館のヒラリー・ジェンキンソンが一九二二年に刊行した『文書館学概論』<sup>(27)</sup>であるといわれている。文書館学の世界的な「古典」のひとつであるこの本は、現在でもイギリスの文書館学校などでは必読文献の第一にあげられるらしいが、これに対し、現在のイギリスにおける最も新しい考え方を代表していると思われるのが、マイケル・クック『文書館学——中小機関と地方行政体のためのマニュアル』<sup>(28)</sup>である。この本は、序文で述べられているように、「第二次世界大戦後、急速にその歩みを早めてきた、いわゆる「文書館革命」archival revolutionの産物のひとつ」である。「文書館革命」とは、記録作成量の爆発的増大と、いわゆる情報化社会の急速な進展に伴う紙以外の記録媒

体（磁気テープやフィルムなど）の大幅な進出によって、文書館とアーキビストの機能に大きな変化が起きている状況をいう。ここ十数年、世界の文書館はこうした変化にどう対応すべきかを模索し続けており、昨年の「第二〇回文書館国際会議」の全体テーマ「文書館の当面する課題——増大する責任と限られた資源」も、まさにそれであった。史料整理と検索手段作成の極めて実務的な分野についてみても、新しい状況に適應した新しい技術の試みが各国で盛んに行なわれており、その一端は、たとえば一九七二年の「第七回文書館国際会議」における「新しい文書館技術」と題するセッション<sup>(29)</sup>や、昨年の同会議における「文書館管理と技術資源」と題するセッション<sup>(30)</sup>の諸報告に見ることができる。

クックの本は、ジェンキンソン以後のこうした変化を背景に書かれた最新のマニュアルであるが、ジェンキンソンの時代との変化は、たとえば「史料群の階層構造」の考え方、とくに史料整理にあたって、「グループ・レベル」と「シリーズ・レベル」をどう構成するか、という点の考え方の違いに表われている。

ジェンキンソンは、「出所原則」を公文書史料に適用するにあたり、フランスの「フォーン」fondsにあたる史料群（グループ・レベル）を、「アーカイブ・グループ」archive groupと名づけ、これを次のように定義した。<sup>(31)</sup>

「組織上それ自体で完璧な統一体を成し、付随的・外部的な權威の助けなくして独立に扱うことのできる一個の行政体（規模は問わない）で、かつ、通常それに属しうる業務についてはこれを全面的に担ってきたような行政体が、業務遂行の結果として生じせしめたアーカイブズ（の総体）」

まずい直訳でわかりにくいのが、要するにジェンキンソンは、「アーカイブ・グループ」の構成にあたって、それを生んだ組織（政府だとはば省ないし庁レベル）の完結性・独立性を非常に厳密にかつ優先的に考えたのである。従って、同じ業務の結果として生じた一連の「シリーズ」（国立文書館では「クラス」classと呼ぶ）とみなしうる史料群

が、たまたま機構改革を間にはさんだために二つの別の省庁文書に分かれているような場合も、ジェンキンソンはあくまでこの両者を別の「アーカイブ・グループ」に分けるべきだと主張している。<sup>(32)</sup>

しかし、このようなあまりに厳密なレコード・グループ概念は、機能の多様化の中で機構改革をくりかえす現代の行政の実態にそぐわないものであるとして、一九六〇年代に入ると、その限界が強く指摘されるようになった。<sup>(33)</sup> その結果、一九七〇年代には、それまでジェンキンソンの「アーカイブ・グループ」概念に依っていた国立文書館が、その厳密な適用を緩和するに至り、「シリーズ（クラス）・レベル」に重点を置いた整理方法へと転換をはかっている。<sup>(34)</sup> つまり、同一の業務機能が、異なる省庁で引き継がれたような場合には、「シリーズ（クラス）・レベル」の史料群の連続性を重視し、「出所」にこだわるあまり別の「アーカイブ・グループ」に分割することはしない、<sup>(35)</sup> というのである。この変化を、国立文書館のマイケル・ローバーは次のように説明している。

「今やレコード・グループはかつてのようには絶対視されなくなり、シリーズ（国立文書館ではクラスという）がより重要視されるようになってきた。……記録作成機能が引き継がれて一連のシリーズを形成しているような場合には、現在では出所に関わりなく同じクラスの中に置かれる。また新しいクラスが、他のクラスとの関連を考慮しながら最も都合のよいグループの中に設けられることもある。新しい部局が設置された場合も、もし既に都合のよいグループがあるならば、あえて新しいグループを立てる必要はない。」

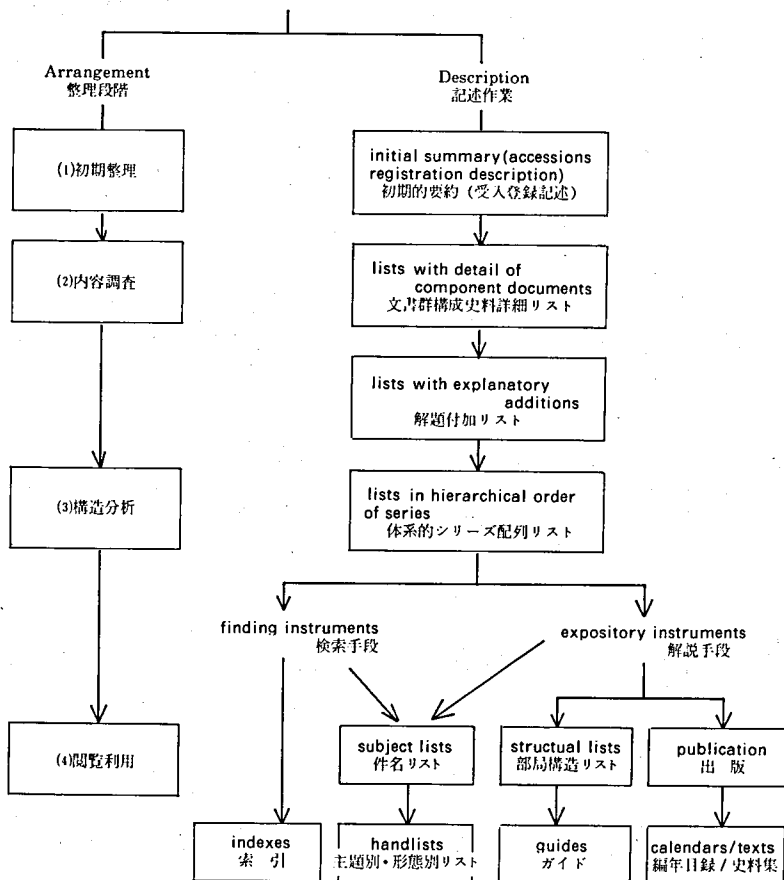
国立文書館については実例を見ていないので十分に理解できない点もあるのだが、「シリーズ・レベル」に重点を置く史料整理の方法は、今やイギリスでは、広く受け入れられているようであり、クックの本も「シリーズ・レベル」を中心したコントロール・レベルとする立場から書かれている。シリーズの重要性については、アメリカについて述べる次章でくりかえすが、要するに、史料のポリシーからみて「シリーズ・レベル」が整理の基本単位として適

当であるという物理的理由と、「シリーズ・レベル」の記述が「史料群の階層構造」を示すのに最も都合が良いという理論的理由とがあるのである。ただ「シリーズ・レベル」を重視するあまり「グループ・レベル」ひいては「出所」そのものを必要以上に軽視することになっては、史料整理の根本原則が崩れてしまう。そのための対応策のひとつという意味であろうか、クックは、「グループ・レベル」をある程度厳密に保持しながら「シリーズ」の連続性を把握することのできる、オーストラリア連邦文書館の「シリーズ登録簿」という方法を紹介している<sup>(36)</sup>。

さて、以上のような変化を踏まえながら、史料整理 arrangement と検索手段の作成（記述作業）description のプロセスについてクックが示している表をもとに作ったのが表(3)である<sup>(37)</sup>。先に述べた史料整理業務の粗から精への段階的深化の過程がよくわかるし、「シリーズ・レベル」コントロールを主眼においたさまざまな検索手段の相互関係が、きれいに整理されている。

(1) 初期整理とは受入登録手続きのための仮整理で、受入状態をあまり変更しないで全体の概要が記述される。(2) 内容調査の段階ではどのような史料が含まれているかの調査に進むが、受入時の原形のままでリスト化されるのが原則である。この段階のリストができれば、閲覧利用は一応支障なく行なえることになる。(3) 構造分析の段階と仮に名づけた段階に入ると、(2)の内容調査にもつき、いよいよ「史料群の階層構造」の本格的再構成の作業が開始される。史料の発生源<sup>11</sup>出所であるところの組織体の歴史や、史料相互の連関性についての分析が進められ、その結果、「史料群の階層構造」を的確に呈示した体系的な配列目録が作成されて整理は一応終了する。この目録は、多くの場合、シリーズを記述の中心単位とし、各シリーズ内部のユニットについては通常ごく簡単なリストが付されるに留まるようである。(4) さらに閲覧利用の段階では、基本目録である体系的シリーズ目録を有効に利用するために、さまざまなレファレンス・ツールが作成される。表では「解説手段」と「検索手段」という分け方をしているが、前者はシリ

表(3) 史料整理と記述のプロセス



Cook, *Archives Administration*, P.118, Fig.7.1をもとに作成。  
但し、「整理段階」の部分は筆者が仮につけ加えたものである。

ーズ目録を理解するための案内・解題として機能するもの、後者は実際にシリーズ目録を使って史料を利用するための狭い意味での検索手段である。

この(4)の段階に属するさまざまなレファレンス・ツールが発達していること(特に索引の発達)は、日本と一歩異なる特徴であろう。つまり、(3)の段階で作成される基本目録の役割が、利用者の便宜よりも何よりも「出所原則」と「原秩序(原配列)尊重の原則」にのっとって「史料群の階層構造」を呈示することに置かれるのに対して、(4)の段階のリスト類や索引は、いかに利用者の要請に応えるかを最大限に考慮して作られているのである。そして、この両者が有機的に結びついて機能した時、便利でかつ科学的な史料の利用が可能になるというわけである。この検索手段間の明確な役割分担と、相互補完的な連関性ということが、記述作業の段階的深化ということと並ぶ、もうひとつの重要なポイントである。クックは、「史料群の階層構造」になぞらえて、これを「目録類の階層構造」*hierarchy of lists*とか「目録類の一族関係」*family of lists*とか表現している。<sup>38)</sup>

## b、検索手段の実際

表(3)にみえるいくつかの検索手段について実例を示そう。但し、国立文書館については実物(ないしそのコピー)を得ていないので、それ以外の、主として地方文書館のものである。

### (1)体系的シリーズ目録

多くの文書館で基本目録となっているシリーズ記述を中心としたこの目録は、たいていの場合タイプ書きであり、公刊されていない。うかつなことに、コピーでサンプルを収集するということをしなかったので、実際の体裁については後で示すアメリカのレジスターと呼ばれる目録とはほぼ同じようなものと思っていた。ただ、シリーズ目



録の要約版というべきものとして『ケント州議会(州庁)文書簡略目録 1880-1945』<sup>(39)</sup>があるので、参考までに掲げてみた(資料①)。この目録の中で、一八八九〜一九四五年のケント州議会(州庁)文書は、(Ⅰ)州議会・各種委員会議事録、(Ⅱ)議会書記局史料、(Ⅲ)州庁各部局史料の三つのアーカイブ・グループに分けられているが、ここに示したのは、第Ⅲ部の最初の一頁である。'ANALYTICAL LABORATORY (C/N)' (化学分析試験所)、'ARCHITECT'S DEPARTMENT (C/B)' (建築局)などの各部局が、ここではサブグループである。そして各サブグループの中では、簡単な部局史の説明のあと、史料の概要がシリーズの列記という形で示されている。たとえば「建築局C/B」でいうと、'plans of institutions, hospitals and clinics, 1899-1938' (諸施設・病院・診療所の設計書)、'New County Buildings, 1910, 1929-37' (州庁新庁舎)などが、それぞれシリーズである。

この目録は、シリーズの中味には全く触れていないので、その点ではむしろ後述する「ガイド」に近いものである。

(2) ガイド (史料案内)

ガイドは、所蔵史料総合案内とも言うべきもので、利用者に文書館の所蔵史料の概要を知らせ、史料検索の第一の手引となるものである。ガイドの基本的要件は、クックによれば、①所蔵史料各グループの出所と内容についての基本情報が記されていること、②各グループの検索手段の種類とその利用の仕方の概要が記されていること、の二点<sup>(40)</sup>である。資料②に掲げたのは、それよりはやや簡略型の、『イースト・サセックス州立文書館簡略ガイド』<sup>(41)</sup>のうち、'LOCAL AUTHORITY RECORDS: COUNTY COUNCIL' (地方行政庁記録、州庁)の一部である。

(3) ハンドリスト (事項別・形態別簡略目録)

ハンドリストは、特定の事項や形態に関する史料ばかりを集めた特別目録で、実物は得られなかったが、『オックスフォード州関係用い地法・裁定書ハンドリスト』『オックスフォードシャー鉄道計画線関係設計図ならびに参考文

PART III

ARCHIVES OF THE COUNTY DEPARTMENTS

ANALYTICAL LABORATORY<sup>1</sup>

(C/N)

The duties of the analysis of food and drugs were among those transferred in 1889 from the Court of Annual General Sessions.

Papers held are registers of tests on fertilisers and feeding stuffs, from 1913 and registers of food and drug tests, from 1922.

ARCHITECT'S DEPARTMENT (formerly BUILDINGS DEPARTMENT) (C/B)

This function was transferred from the Court of Annual General Session, the County Architect also holding the appointment of County Surveyor, with a primary responsibility for the maintenance of bridges.

In 1904<sup>2</sup> separate appointments were made, and Mr. Ruck, holder of the dual appointment from 1889, was made County Architect, with responsibility for the maintenance of bridges, and buildings of the Council other than asylums, or educational establishments. He was allowed to retain his private practice. Major Robinson, Architect of the Education Department, became whole-time County Architect in 1930.

Papers held are plans of institutions, hospitals and clinics, 1899-1938; New County Buildings, 1910, 1929-37, including architect's drawing of proposed County Hall on site of Maidstone Prison, 1929; Insurance Committee Offices, Maidstone, 1912; Police Headquarters, 1915; Bromley Court House, 1920; Deal Police Station, 1929; proposed mental hospital at Meopham, 1938. Project record cards, from 1945, giving details of building projects from date of approval to completion.

CHILDREN'S DEPARTMENT

(C/Ch)

The first Children's Officer was appointed in 1948, following the Curtis Report of 1947, and the Children's Act of 1948<sup>3</sup>. The department took over responsibility for children in County care, formerly exercised under various Acts by the following departments:- Public Assistance Department (Poor Law Act, 1930)<sup>4</sup>; Health

<sup>1</sup> See Guide (1958), pp. 20, 23 for pre-1889 records.

<sup>2</sup> See p. 22 Roads Department.

<sup>3</sup> 11 & 12 Geo. VI, c. 43.

<sup>4</sup> 20 & 21 Geo. V, c. 17.

(註) 『ケント州議会(州庁)文書簡略目録1889-1945』より(説明は本文参照)。

## 資料(2)

Brighton County Borough Council: motor licences 1904-39 (VEH 9 and 10).

Hastings County Borough Council: motor licences 1903-20 (VEH 2).

## LOCAL AUTHORITY RECORDS

## COUNTY COUNCIL

Architect's Department: news cutting books 1951-70; plans of former County Hall c1840-1956 (C/A).

Clerk's Department: County Council minutes from 1889; agendas, papers and reports from 1889; minutes of committees, sub-committees and joint committees from 1889 (C/C11-12); clerk's personal correspondence 1939-73; South Downs preservation bill papers 1932-34; registers relating to diseases of animals, charities, entertainment, housing, planning, pharmacy and poisons, air raid precautions, shops act, land valuation 1913-74; letter books re local government board and ministry of health, northern area East Sussex Joint Town Planning, liquor licences, motor car licences, Sussex counties joint committee, parliamentary bills committee 1891-1936; press cuttings 1889-1965; maps of boundary alterations 1895-1976; civil defence and ARP incident books, journals, maps and files 1938-45; year books 1894-1973; sealed order books 1893-1974 (C/C passim); non-current title deeds of county council properties 1800-1969 (R/C4).

Education Department: reports of HMIs and school medical officers 1909-71 (C/E2, 5, 7, 8); correspondence received by committees 1900-32 (C/E3); bulletins 1937-74 (C/E6); education committee minutes 1903-74, summaries and reports 1903-35, notices of motion 1903-49 (C/E9); sub-committee minutes 1903-74 (C/E10); registers of teachers and pupils 1904-70 (C/E14-15); correspondence 1895-1974 (C/E21-28). See also School Boards.

School Records: These relate to former National, British and Board schools and other educational institutions administered by East Sussex County Council and the former county boroughs. They were received before and after 1974 but for convenience have been listed as one series. Records of some national schools are to be found amongst parish records and family and solicitors' archives.

Managers' minutes 1815-1971 (EMA); log books, admission registers, punishment books, accounts 1823-1977 (ESC).

Fire Brigade: Annual reports 1949-66 (CF1); correspondence and report files 1941-74 (C/F8-13).

Health Department: Annual reports of county medical officer of health 1894-1972 (C/H2).

Estates Department: Annual reports of county smallholdings 1922-68 (C/J1); correspondence files 1919-72 (C/J2).

Planning Department: Development plans, town maps 1923-73; community surveys including land use 1947-71; structure plan reports 1974-81 (C/P, R/P).

Engineer's and Surveyor's Departments: annual reports 1956-73; county surveyor's books of accounts and memoranda 1861-1926; aerial photographs 1937 (C/R).

(註) 『イースト・サセックス州立文書館簡略ガイド』より。  
建築局, 書記局, 教育局, 学校記録, 消防隊, 保健局, 不動産局, 計画局,  
技術調査局などの部局史料がみえる。

献ハンドリスト』などというものがある。<sup>(42)</sup>

#### (4) 索引

索引は、先述のように、欧米では、基本目録を有効に使いこなし、いかなる利用目的に際しても的確かつ迅速に目指す史料に行きつくことができるようにするための、重要な検索手段である。ふつう人名・地名・件名(主題)の三種類があるが、一番難しいのは言うまでもなく件名(主題)索引で、アーキビストはこれに大いに頭を悩ませているのである。この点は後でもう一度述べるので、ここではとりあえず筆者が見た中で一番ていねいな索引作成を行っていたウェールズ国立図書館史料記録部の事例を掲げておくことにしよう。<sup>(43)</sup>

ウェールズ国立図書館史料記録部の所蔵史料については、一部、印刷目録があるが、大半はスケジュール・shed・lesと呼ばれるタイプ書きのリストに記述されている。これは、個々のアーカイブ・グループやマニフスクリプト・コレクションごとに作られた基本目録で、総数約六五〇冊にのぼっている。この基本目録に対する索引(史料現物に対する索引ではない)の作成作業は一九六四年に始まり、一九七八年現在、次のような九種類のカード索引ができている。

- ①地名索引(13箱)(州名、教区名、都市名、荘園名、資産家屋敷・領主邸宅名)、②地主所有地名索引(1/2箱)、③人名索引(4箱)、④遺言状索引(4箱)、⑤死後訊問調書索引(1箱)、⑥婚姻継承的不動産処分索引(3箱)、⑦件名(主題)索引(5箱)、⑧地図索引(2箱)、⑨個別的法律案および国会制定法索引(1箱)

右の内、⑦件名(主題)索引について若干説明すると、項目は四つのランクに分かれている。すなわち主項目語の下に、三段階の下位項目語が置かれるのである。

たとえば、

RELIGION

宗教

CHURCH OF ENGLAND 英国国教会

ADVOWSONS

聖職推挙権

ANGLESEY

アングルシー州

各ランクの項目語はアルファベット順に配列され、最小項目の中での索引カードの配列はその史料の年代順である。探している事項がどの主項目の中にあるかを知るためには、索引の索引である「語彙一覧」 word-key が準備されている。これについては、ウェールズ国立図書館史料記録部と同じ件名索引システムを作っている国立史料登録局 National Register of Archives の実例がクックの前掲書に出ているので、次に掲げておいた。<sup>(4)</sup> 資料(3) a が、やはり四ランクからなる国立史料登録局の件名索引項目表の一部、資料(3) b がこの索引項目表の索引である語彙一覧 word-list である。たとえば、PUBLIC HEALTH (公衆衛生) について調べたい人は、GOVT. LOCAL (地方政府) という主項目のほか、MEDICINE (医学) の項目をも見よ、という指示を得るわけである。項目語の適切な選択とともに、語彙一覧表 word-list のシンソーラス (類義語辞書) としての質を高めることが、件名 (主題) 索引の有効性を保証することになる。

c. 「歴史的古文書の伝統」 HMT II 図書館学方式

ジェンキンソンによって体系化され、クックによって最新の水準が示されているイギリスの文書館学の理論と技法は、現在では公文書史料や企業史料だけでなく、家や個人の史料 (とくに起源の比較的新しいもの) についても適用されるようになってきている。ただ、この点については調査不足であまり正確な情報を提供できないのだが、後述す

資料(3)-a

(1) GOVERNMENT, LOCAL: (行政府, 地方)	(2) Finance: (財政)	(3) General Rates: (一般税)	(4) General County Rate Highway Rate Police Rate Poor Rate Sewer Rate (一般) (州税) (道路税) (警察税) (教貸税) (下水道税)
	: Highway Administration	General Finance Street Cleansing, Lighting & Paving	
	: Organisation	General: Boroughs: General Mayoralty Town Halls Counties: General County Councils Shire Halls Parish Councils & Parish Meetings Rural District Councils Urban District Councils	Boundaries

(註) 「国立史料登録局件名索引項目表」より (Cook, *Archives Administration*, p.125)。

資料(3)-b

PUBLIC HEALTH (公衆衛生)	see GOVT., LOCAL: Public Health (地方行政府: 公衆衛生を見よ) see also MEDICINE (医学をも見よ)
PUBLIC HOUSES	see BREWING: Property see also CATERING TRADE: Victuallers, Hotels & Innkeepers
PUBLIC ORDER	see GOVT., LOCAL: Public Order see also ARMY: Post-1660: Organ. & Admin.: Support of Civil Power CRIME & PUNISHMENT TREASON: Riots
PUBLIC PARKS	see HOUSING & TOWN PLANNING: Parks (Public)
PUBLIC SCHOOLS	see EDUCATION: Schools: Public
PUBLIC UTILITIES	see GOVT., LOCAL: Public Utilities see also ELECTRICITY GAS POSTS & TELEGRAPHS TRANSPORT

(註) 「国立史料登録局件名索引語彙一覧」より (Cook, *Archives Administration*, p.127)。

306. Depositor Messrs Smith-Woolley and Co, Catalogue Smi.  
Land Agents  
Acc.no. 387  
Remarks: Includes some good examples of Great Seals of Elizabeth I and James I  
Manorial: Licences to alienate, pardons of alienation and other deeds Over Worton manor 1566-1881 (29)

307. Depositor Lady Snow Catalogue Misc.Snow  
Acc.no. 28  
Deeds: Henley-on-Thames, Canterbury, Derby and Cambridge 1724 (1)

308. Depositor Col.H.Southam Catalogue Misc.S.  
Acc.no. 2, 9, 45  
Deeds: Crowmarsh Gifford 1649 (1); Shutford 1706-30 (6); Watlington 1661 (1); Chipping Norton 1711 (1)

309. Depositor F.V.Spiller Esq Catalogue Ox.  
Acc.no. 150, 310  
Remarks: Records of the Oxford Canal Company  
Deeds: Banbury including the 'Bull' in 'Suggarbarr' Street 1688-1725 (7); Cropredy 1769 (1); Oxford St Thomas's parish 1793 (1); Oxford St Peter-le-Bailey parish 1796 (1); Abingdon 1621-1801 (5); Oxford, Wolvercote, Mollington, Clattercot, Souldern, Banbury, Fenny Compton (Warws), Wormleighton (Warws) and Aynho (Northants) 1800 (1)  
Estate: Bletchington terrier 1839 (1)  
Parish: Rate books for Branstons (Leics), Barby with Olney (Northants), Souldern, Easenhall (Warws), Fenny Compton (Warws), Priors Marston (Warws), Napton (Warws), Sowe (Warws), Stretton (Warws), Wormleighton (Warws) and Coventry (Warws) 1828-52 (14); precepts and summons re non-payment of rates 1851-55 (4)  
Ecclesiastical: Hillmorton (Warws) tithe apportionment 1843 (1)  
Probate: Will of John Freeman of Oxford 1739 (1)  
Transport: Canal administration: byelaws 1776-1808 (3); form of proxy appointment no date (1); land tax redemption 1798-9 (5); mortgage assignments 1832 (1); certificate of dissolution of (inter alia) the Oxford Canal Company by the Board of Trade 1949 (2)  
Parliamentary: Canal acts and bills 1769-1840 (3); petitions, evidences and case summaries re canal 1829-53 (4); road improvement acts 1810-32 (4); poor law acts Oxford and general 1771-1844 (6); misc.papers 1795-1832 (2)  
Maps: Plan of intended canal Coventry-Oxford 1768 (1); Thames-Severn canal (proposed) 1784 (1); London-Birmingham canal (proposed) 1837 (1); Oxford, Coventry and Burton-on-Trent Junction Railway plan no date (1); Richardson's map of the British Isles 20th cent.(2)  
Misc.: Misc.books 19th cent.(4)

(註) 『オックスフォードシャー州立文書館個人寄託史料概要目録』より。たとえば309の「F.V.Spiller氏寄託史料」は、証書、所有地、教区、教会、遺言検認、運輸、議会、地図、その他、の9項目に分かれている。

るアメリカの場合に比べると、イギリスではHMTの占める位置がまだ相当に高い印象を受けたことも事実である。これは言うまでもなくイギリスにおける「歴史的古文書」がアメリカに比べはるかに古くから存在し、その保存の伝統もはるかに古いということによるのであろう。たとえば、資料(4)に掲げたのは、オックスフォードシャー州立文書館の『個人寄託史料概要目録』<sup>(45)</sup>の一部である。この概要目録には一九三五年の文書館設立以来一九六五年までに寄託された三六〇件の家史料・個人史料が載っているが、主題(内容)による分類の色彩が濃い整理方式をとっていることがうかがわれる。

#### 四 アメリカにおける史料整理と検索手段作成の歴史と現状

##### 1 「公文書史料の伝統」PATと「歴史的古文書の伝統」HMTの相克

リチャード・C・バーナー『アメリカにおける文書館学の理論と技法——その歴史的分析』<sup>(46)</sup>は、「公文書史料の伝統」Public Archives Tradition, PATと「歴史的古文書の伝統」Historical Manuscripts Tradition, HMTの相克という観点からまとめた、すぐれた文書館学史の研究書である。バーナーの言うPATとHMTの相克とは、端的に言えば(端的に過ぎるかもしれないが)、史料整理と検索手段作成の理論と技法をめぐる、文書館の陣営(アーキビスト)と、図書館や地方歴史協会の史料部門の陣営(マニユスクリプト・ライブラリアン、マニユスクリプト・キュレイター)との論争の歴史である。以下、本節では、アメリカの現状を理解するための前提として、この興味深い本の要旨をまとめてみたい。<sup>(47)</sup>



バーナーは、一九三六年と一九五五年を境に、三つの時期に時期区分している。一九三六年は、前年に国立文書館の本格的活動が開始されたのをうけ、アメリカ・アーキビスト協会が設立された年である。また、一九五五年とは、T・R・シェレンバーグの名著『近代文書館——原理と技術』<sup>(48)</sup>が刊行された年である。

#### a、一八〇〇—一九三六年

一九世紀は公文書史料をアーカイブズとして把える考え方が稀薄で、公文書史料と民間史料の明確な区別なく、ともに歴史的価値の高いものが「歴史的古文書」[historical manuscripts]であるとされ、著名なコレクターや図書館・地方歴史協会によって、選択的に収集されていた。蒐集家による整理は年代順であることが多いが、図書館・地方歴史協会では図書の分類整理方式に準じた一点ごとのカード・カタログ作成が一段的であった（ちなみにデュイの十進分類法が完成するのが一八七六年である）。

公文書史料の整理に「出所原則」を初めて導入したのは、アーノルド・J・ヴァン・ラエールである。ラエールはオランダでアーキビストとしての訓練を受けたあと、一八九八年にニューヨーク州立図書館史料部長になり、ここでヨーロッパ流の「出所原則」による史料整理を実践した。翌一八九九年にはアメリカ歴史協会に公文書史料委員会が設置され、その活動の成果として、一九〇一年には最初の本格的な公立文書館としてアラバマ州立文書館が、次いで一九〇二年にはミシシッピ州立文書館が設立される。これらの文書館では、設立当初から、すべての記録類を可能な限り元の秩序（配列）通りに保存することが意図され、特にミシシッピ州立文書館のダンバー・ローランドは、アメリカで「科学的文書館実務を体系的に提唱した最初の人物」と言われている。

記述Ⅱ検索手段作成の方式も、「出所原則」と「原秩序（原配列）尊重の原則」の導入によって変化する。すなわ

ち、史料一点ごとのカード・カタログを管理と検索の基本手段とする図書館のカード・カタログ方式に代わって、史料群単位の集団記述方式 group description を用いたインベントリー inventory と呼ばれる目録が登場するのである。インベントリーは、一九〇〇―一九〇七年のアメリカ歴史協会『年報』に連載された全米各州の州文書目録<sup>(49)</sup>を嚆矢とするが、次第に広く採用されるようになる（インベントリーについては後述する）。

PAT は、こうして一九世紀末から二〇世紀初頭のごく短い期間に急速にその地歩を固めていく。その結果、アメリカ歴史協会公文書史料委員会が開いた一九〇九年や一九一〇年のアーキビスト会議において、「出所原則」を主張する立場から図書館の分類方式による史料整理の不適切さを指摘するアーキビストと、公文書史料についてはそれを一応容認しながらも民間史料の場合は別であると考えるマニユスクリプト・ライブラリアンの路線の違いが鮮明となるに至るのである。

これをきっかけとして、図書館側でも独自の史料整理マニュアルを作る動きが生まれる。主導的な役割を担ったのは議会図書館 Library of Congress, LC の史料部である。一九二三年、同部の J・C・フィッツパトリックはアメリカで最初といわれる史料整理マニュアルを出す<sup>(50)</sup>が、これはもっぱら寄せ集めの蒐集コレクション史料を対象としたものであった。フィッツパトリックの方式は「編年別―地域別」組み合わせ整理方式といわれるもので、図書の主題分類方式を脱しようとした点に意義はあるが、史料の出所は考慮されず、当然のことながら史料群という概念も採り入れられていなかった。しかし、当時のマニユスクリプト・コレクションの一般的な形態（寄せ集めの蒐集コレクション）に適合的であったこともあって、少なからぬ影響力を持ったのである。

b、一九三六—一九五五年

この時期は、国立文書館の主導によってPATが著しい発展を遂げる一方、HMTの側にもPATの影響による大きな変化が表われてくる時期として位置づけられる。

国立文書館 National Archives, NAは、一九三四年に設立されるが、初期の機構は「受入部」「閲覧部」「分類部」「目録部」といった、機能も名称も図書館のそれにならった横割りの組織をもっていた。その誤まりは直ちに認識され、一九四一年までには初期の機構は廃されて、所蔵史料によって区分する縦割りの組織に移行することになる。

一九四一年の改革にあたって、史料整理と検索手段作成に関する国立文書館の新しい指針が打ち出されている。そのポイントは次の二点である。

第一は、整理の最大単位となる史料群をほぼ省の下の局レベルにおいて、これを「レコード・グループ」record groupと規定し、その概念を明確にしたことである。イギリスの「アーカイブ・グループ」が出所の単一性・独立性の原則を厳密に適用したため省庁の機構改革にうまく適応できなかったことは先述したが、米国立文書館の「レコード・グループ」は、出所原則にもとづきながらも一定の融通性を持たせたものである。すなわち、同じ機能を引き継いだ局の文書は前の局の文書と同じグループにまとめることができるとしたほか、小規模な局で機能に密接な関連のある複数の局レベル文書を、整理上の便宜のためひとつにまとめ、「集合的レコード・グループ」collective record groupというものを作ることをも認めたのである。

第二は、レコード・グループの整理と記述の作業手順を細かく定めたことである。簡単に記すと、「レコード・グループ登録簿」↓「予備的チェック・リスト」↓「予備的目録」↓「最終的目録」↓「索引」というプロセスで、中心となるのは予備的目録 preliminary inventoryと最終的目録 final inventoryという二段階のインベントリーである。

インベントリーの記述は原則としてシリーズ単位で、場合によっては他のレコード・レベル（たとえばサブシリーズやユニット）が採用される。要するに、イギリスで見たシリーズ目録にあたるのがインベントリーであると考えてよい（後述）。予備的目録と最終的目録の違いは、シリーズの配列構成がどれくらい深い分析にもとづいているかによるようである。

国立文書館の理論と技法は、その後同館のさまざまな出版物を通じて全国に普及した。たとえば一九五一年六月の『スタッフ連絡資料18号』には当時同館の部長であったシェレンバークが「整理の原則」を執筆しているが、そこでは「史料群の階層構造」を構成するサブグループ、シリーズ、ファイル・ユニットなどのグループ・レベル概念が前掲表(1)でみた現在の形に非常に近い形で示され、大きな影響を与えた。ただバーナーによれば、この段階のシェレンバークのグループ・レベル概念には、一部にあいまいなところがある、という。たとえばサブグループが必ずしも組織・機構上の区分にもとづく史料群として厳密に規定されておらず、史料のタイプや機能、内容にもとづくサブグループも立てうるとしているため、結果的にシリーズ・レベルとの間に混同が生じている、などの点である。

いずれにせよ、P A Tの分野で右のような進展がみられたことは、H M Tの分野にも大きな影響を与えた。数多くの図書館や地方歴史協会の史料部門で「出所原則」を尊重した整理が試みられ、国立文書館のインベントリー方式を採用する所もあらわれるようになった。特に注目されるのは、議会図書館の変化である。

一九四八年、国立文書館の館長であったソロン・J・バックが、議会図書館の史料部長に迎えられた。バックは初めてのアーキビスト出身の部長として、文書館学の成果を取り入れた「歴史的古文書」整理法の開発に着手し、その結果、一九五〇年に「マニユスクリプト・グループ・システム」と呼ばれる新システムを打ち出すのである。「マニユスクリプト・グループ」manuscript groupは、国立文書館の「レコード・グループ」概念をほぼそのまま転用して

おり、議会図書館所蔵の家史料や個人史料の整理に「出所原則」を基本とする文書館方式を積極的に採用したものであった。記述Ⅱ検索手段作成の方式も、カード・カタログ方式からインベントリー方式へと変更されることになった。このインベントリーは、やがて国立文書館の予備的目録 *preliminary inventory* の様式を適用し、「レジスター」*register* と呼ばれるようになって今日まで議会図書館史料部の基本目録となっている（後述）。

この時期、HMTの分野でもうひとつ重要な動きとして、「全国史料総合目録」*National Union Catalog of Manuscript Collections, NUCMC*の編集作業が開始されたことがあげられるが、次項で述べることにする。

### c. 一九五六—一九七九年

#### (i) 文書館学方式の図書館学方式に対する凌駕

この時期は、PATのHMTに対する優位が決定的となり、HMTの分野でも文書館学方式がごく一般的に受容されるようになる時期として位置づけられる。その背景には、第一に、文書館学方式における「史料群の階層構造」概念が理論的に精密化したこと、第二に、いわゆる「歴史的古文書」のアーカイブズ的性格についての研究が深まり、文書館学の論文やマニュアルの中で、その取り扱い方が積極的に論じられるようになったことがあげられる。要するに文書館学が従来のもつばらPATに立脚したものから、PATとHMTの融合をめざした総合的なものと脱皮したということであろう。それから、これはバーナーはあまり強調していないのだが、第三の背景として指摘できることに（むしろこれが一番の要因ではないかと思うが）、図書館史料部の扱う史料の量が以前とくらべはるかに膨大となり、従来のような図書館の一点別カード・カタログ方式をやっていたのでは、とても整理が追いつかなくなってきた、という事情があるのではなからうか。

第一にあげた「史料群の階層構造」概念の精密化に因していえば、最初にあげるべき業績はシェレンバークの『近代文書館——原理と技術』（一九五五年）である。ただこれには、前述した国立文書館『スタッフ連絡資料第18号』（一九五二年）の問題点、すなわちサブグループの位置づけにやや不明瞭な点がありシリーズとの概念上の混同が生じている、という問題点がそのまま残っていた。この問題点を解消したのは、O・W・ホルムズやR・C・バーナーらの功績である。バーナーは、①あくまで内部的な組織上・機構上の区分にもとづいて、サブグループを独立の史料群レベルとして設けるべきである、②シリーズはあくまでサブグループの下位レベルとして存在する、つまりサブグループの設定は、それぞれのシリーズの「身元」parentを確定することである、と指摘している。ここで言われていることの意味は、サブグループ抜きにいきなり一般的なシリーズを設定した場合、本来ひとつのサブグループであるべき史料群があちらこちらのシリーズに分散してしまうおそれがあるということ、要するに「出所原則」をサブグループ・レベルにまで適用すべきだ、という主張である。サブグループとシリーズの関係についてのかかる考え方は、シェレンバークも新しい著書『文書館管理論』（一九六五年）で採り入れており、現在の通説となっている。

右に述べたような「史料群の階層構造」についての議論は、公文書史料だけを対象にした議論であるとすれば至極当然のことのように思われるのだが、この時期の特徴は、先に第二の背景として述べたように、その議論が「歴史的古文書」の分野をも射程に入れて展開した点にある。

いわゆる「歴史的古文書」と呼ばれるものの多く、特に起源の比較的新しい企業や家や個人の史料群が、有機的・体系的な内部構造を持ったアーカイブズとしての性格を有していることは、かなり早くから指摘されていた。この時期にはさらに一歩進んで「歴史的古文書」という呼び方そのものの疑問が出されるに至る。その結果、一九六〇年代には、「歴史的古文書」historical manuscriptsの用語は一点一点バラバラの蒐集コレクションや特別有名な古文書

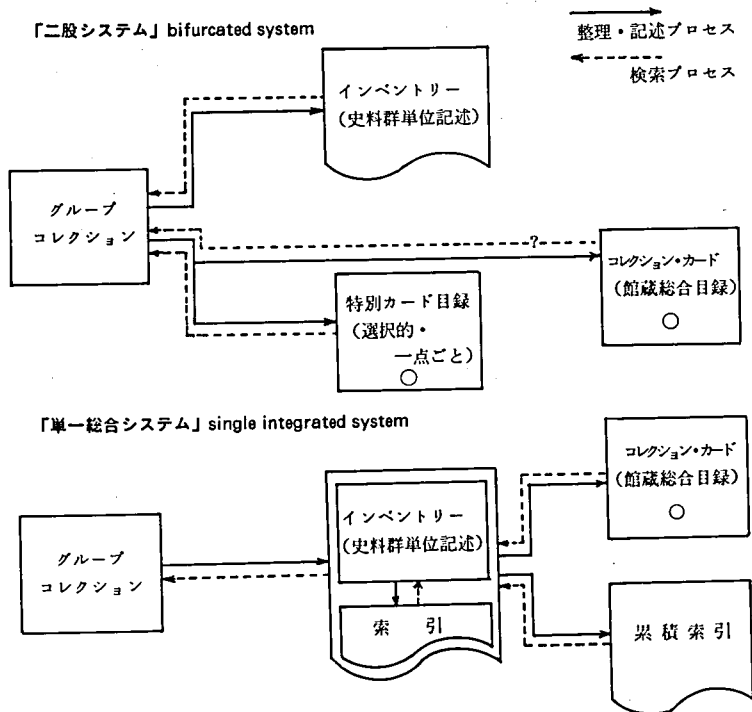
に限定し、それ以外の史料群は、公文書でないアーカイブズという意味をこめて、「民間史料」private papers などと呼ばれるようになったということである。

シェレンバークも、『近代文書館』（一九五五年）では、むしろ「歴史的古文書」の非組織性や偶然性の側面を強調していたのに対し、『文書館管理論』（一九六五年）では、逆にマニスクリプト・コレクションないし民間史料における、シリーズ・レベルの史料群の重要性を強調し、シリーズ単位の集団的記述という文書館学方式の適用を推奨している。

さて、このような動きを受けて図書館史料部門などにおける民間史料の整理・記述が実際にどう変わったかをみると、二つの型があるようである。バーナーの表現によれば、「二股システム」bifurcated systemと「単一統合システム」single integrated systemの二つである。

「二股システム」とは、ひとつの史料群について、カード・カタログによる図書館的目録作業と、インベントリーを中心とした文書館的記述作業の両方が行なわれるシステムを言う。その一例をミネソタ歴史協会のマニスクリプト・キュレレーターであったL・M・ケインのシステムにみると、①目録化の基本単位としてサブグループ・レベルとシリーズ・レベルが指定され、これらの史料群単位の記述のために、インベントリーないしレジスターが作成される、②コレクションないしグループ単位の基本カード（コレクション・カード）と副出カードが作成され、その機関の所蔵コレクション全体の辞書体目録の中に編入される。③特に重要な史料については、一点別の特別カード目録や年次順リストが作成される、というものであった。よく理解できない点もあるが、簡単に図示すると表(4)のようになるのではないかと思う。このシステムの特徴は、①のプロセスと②・③のプロセスがそれぞれ独自に史料の現物から情報を取っていて、互いに連動していない点にある。「二股システム」と呼ばれる理由はそこにあるが、バーナーは、こ

表(4) 「二股システム」と「単一総合システム」



資料(5)

Myers, Guy C., 1896-1960

For manuscripts of the above, see Guides to the following collections:

SEATTLE LIGHTING DEPT. RECORDS UW LIB. MSS. COLL.	REACH B. MITCHELL MSS. UNIV. OF WASH. LIBRARY	N.W. PUBLIC PWR. ASSEN. MSS. UNIV. OF WASH. LIBRARY
ROBERT W. BECK PAPERS U. OF W. LIB. MSS. COLL.	Guy C. Myers Papers U. of W. Mss. Coll.	GUS NORWOOD PAPERS U OF W LIB. MSS. COLL.
JAMES I. METCALE PAPERS U OF W LIB. MSS. COLL.	LILLIAN S. SHEAR MSS UNIV. OF WASH. LIBRARY	PUGET SOUND POWER & LIGHT COMPANY U OF W LIB. MSS COLL.
HOUGHTON, CLUCK, COUGHLIN & SCHUBAT ARCHIVE U OF WASH. LIB. MSS. COLL.		

(註) ワシントン大学図書館の史料コレクション累積索引より (Berner, *Archival Theory and Practice*, p.166)。



のシステムの場合、一点別のカード・カタログが選択的にならざるを得ないためにどうしてもアト・ランダムで主観主義的になりやすい、と批判している。なぜこういう複雑なことをするのか私にはよくわからないのだが、文書館学上の必然性と史料量の増大によって、全史料の一点別カード・カタログ方式は放棄せざるを得なくなっただけで、なお選択的カード・カタログという形で図書館的方式に固執している、ということなのであろうか？

次に「単一統合システム」であるが、これは、本書の著者R・C・バーナー自身がシェレンバークの指導を受けてワシントン大学図書館で実践したシステムに代表される。細かいところを省略すると、表(4)に示したように、①インベントリーが基本目録として作成され、その利用のためにさまざまな索引が作られる、②インベントリーを情報源とした、コレクションないしグループ単位の基本カード(コレクション・カード)と累積索引が作成される、③三点を骨子としたシステムである。累積索引 cumulative index とは、コレクションをこえた館蔵史料全体の総索引で、資料(5)にシート形式による一番単純な累積索引の例をあげておいた。この例はガイ・C・メイヤーズという人名についての索引で、スタンブされている10のコレクションに関連史料があるということである(もっと詳しい累積索引は、直接各コレクションのインベントリーの頁や史料群のナンバーを指定する)。このように、「単一統合システム」では、利用者はコレクション・カードや累積索引を通して、さらにインベントリー本体に至り、インベントリーが常に史料検索の最終窓口になるのである。ここでは、カード・カタログは、コレクション・カードの形でのみ、その痕跡を残していることになる。文書館学方式と図書館学方式の融合というよりも、ほとんど完全な文書館学方式といえよう。

## (2) HMTの再登場

HMTは、前項でみたように、PATに押されて衰退の傾向にあったが、バーナーに言わせると、それは「夏の北

極めたそがれ」のごとく、決して完全に暮れることのないたそがれであった。

第一にバーナーは、この時期になっても依然として、伝統的な図書館の方式にのっとった有力な史料整理論が登場していることをあげている。特に、一九七五年に刊行されたK・W・デュケットの『近代マニスクリプト——その管理・取り扱い・利用のための実務マニュアル』<sup>(50)</sup>にページをさき、「史料群の階層構造」概念や検索手段作成技法についての最近の成果がとり入れられていない点を厳しく批判している。

第二に、全国的な史料目録規則の登場の問題がある。「全国史料総合目録」と「英米目録規則」の二つがこれである。

「全国史料総合目録」National Union Catalog of Manuscript Collections, NUCMC は、公文書史料を含む全米のあらゆる史料群一件一件の概要を記した総合目録で、一九四八年に着手され、議会図書館の記述目録部 Descriptive Cataloging Division が主体となって現在も継続中の事業である。各史料所蔵機関からの報告にもとづいて編集され、第一巻の刊行は一九六二年。以後、年報の形式で毎年発行している（資料(6)参照）。

事業開始当初、目録の記載要領を定める規則の作成にあたっては、アメリカ図書館協会とその代弁者として活動した議会図書館記述目録部の意向が強く反映した。その結果、国立文書館などから強い疑問が出されたにも関わらず、「アメリカ図書館協会目録規則」と「議会図書館記述目録規則」の影響の濃い、図書館的カード・カタログ方式が採用された。すなわち、インベントリーなど文書館学方式によって作成された目録類をNUCMCカードの情報源として利用するのではなく、史料群の現物からカタログ作成を行なうという伝統的な目録作業手順が容認されたのである。バーナーによれば、このことによって、本来コレクション・レベルの目録規則である筈のNUCMC規則が、地方の史料保存利用機関などでコレクションの中味の整理のために転用される、という弊害が生じた。NUCMC規

**Wyneken, Friedrich Konrad Dietrich, 1810-1876.**

Papers, 1838-1911.  
 ca. 130 items.  
 In Concordia Historical Institute collection (St. Louis)  
 in part, transcripts.  
 Letters, program and church official correspondence on  
 pastoral and synodical affairs, comments on mission work in early  
 settlements in Michigan and Indiana, biographical notes, sermons, pro-  
 grams of the Wisconsin centennial, pamphlets appealing for more win-  
 ning of German immigrants and poets. The material is related to  
 the repository's treasure, i.e. Fuehringer, Loebe, W. Schler, Walther,  
 and Saginaw Valley collections.  
 Then to investigators under repository restrictions  
 Information on library rights available in the repository.  
 Gifts of: F. Fuehringer, H. Kwong, H. Steyer, E. T. Wyneken, and  
 others.

MS 62-1024

**Funkhouser family.**

**Papers, 1786-1941.**  
1908 items and 13 v.  
In Duke University Library.  
Correspondence, diary, and other papers, chiefly 1835-1908, of the Funkhouser family of Virginia. Topics discussed include conditions in the West, opposition to slavery, and economic conditions in the U. S., after 1837; Civil War letters concern Northern opinion, race, life of Union and Confederate soldiers, and the state of the South. Post-war letters are mostly personal. Includes a diary (1893) kept by G. H. Snapp, a minister of the United Brethren in Christ Church, telling of religious life among soldiers and civilians.  
Card index in the library.  
Acquired, 1964-58

MS 62-1025

**Freeman, Merrill Pingree, 1844-1915.**

Papers, to 1920.  
1 box.  
In Arizona Pioneers' Historical Society collections (Tucson, Ariz.)  
Banker. Articles or reprints of articles written by Freeman including Colorado's expedition in 1840. The dread Apache--that early day scourge of the Southwest, Early day experiences of an old-time telegrapher. The regeneration of Tucson, early day conditions contrasted with today, 1914, and When the Pope first heard of Tucson.

MS 62-1026

**Bizzell, William Bennett, 1978-1944.**

Papers, 1914-44.  
14 ft.  
In University of Oklahoma Library.  
Author and educator. 'Correspondence (personal and business); speeches; MS of Hissell's work. The changing intellectual climate; scrapbooks; articles, newspaper clippings, and other printed matter on such subjects as China, India, defense, economics, education, political science, religion, and sociology; certificates; Hissell genealogy; maps; and photos. Includes material relating to the University of Oklahoma.

MS 62-1027

**Burke, Thomas, 1849-1925.**

Papers, 1875-1925.  
 26 ff. (ca. 40,000 items)  
 at the University of Western London  
 Lawyer, businessman, and politician. Personal and business correspondence, and other papers. Concerns business promotions in the Pacific Northwest, the development of the railroad industry, and the general business of the Great Northern Railway Co., the Carnegie Endowment for International Peace, and the American Chamber of Commerce in the Orient, and Washington State politics. Personal and business correspondence includes John Reed Allen, Raymond Brainerd, the China Club in Seattle, the Japanese Consulate in Seattle, William Lacey Jones, and the American Bankers Association. Includes correspondence with the following: James Dickinson Smith and Co., bankers of New York, William Carson Smith, Henry Law in Stinson, William Howard in Seattle, and the American Chamber of Commerce in the Orient. Also the library of Caroline M. Burke, Gilman, and McMillan relatives.  
 Date of acquisition: 1980.  
 Open to investigators under library restrictions.  
 Information on library rights available in the library.  
 Date of last update: 1990.

MS 62-1028

West Virginia University.

Personal papers and related materials, 1758-1957.  
ca. 370 items, 4 v., 1 box and 28 folders.

See West Virginia University Library (25, 27, 28, 34, 36, 66, 80, 88, 94, 123, 128, 144, 148, 151, 186, 209, 209, 218, 220, 231, 240, 248, 250, 290, 294, 298, 298, 299, 331, 335, 337, 339, 341, 447, 533, 567, 590, 591, 611, 385, 389, 404, 423, 435, 438, 456, 468, 476, 488, 500, 510, 526, 580, 583, 547, 561, 592, 596, 606, 610, 628, 648, 664, 672, 687, 692, 720, 731, 737, 742, 748, 751, 764, 787, 703, 804, 814, 827, 828, 868, 878, 893, 905, 912, 913, 924, 938, 944, 943, 961, 971, 972, 978, 998, 1013, 1021, 1022, 1023, 1024, 1025, 1026, 1027, 1028, 1029, 1030, 1031, 1032, 1033, 1034, 1035, 1036, 1037, 1038, 1039, 1040, 1041, 1042, 1043, 1044, 1045, 1046, 1047, 1048, 1049, 1050, 1051, 1052, 1053, 1054, 1055, 1056, 1057, 1058, 1059, 1060, 1061, 1062, 1063, 1064, 1065, 1066, 1067, 1068, 1069, 1070, 1071, 1072, 1073, 1074, 1075, 1076, 1077, 1078, 1079, 1080, 1081, 1082, 1083, 1084, 1085, 1086, 1087, 1088, 1089, 1090, 1091, 1092, 1093, 1094, 1095, 1096, 1097, 1098, 1099, 1100, 1101, 1102, 1103, 1104, 1105, 1106, 1107, 1108, 1109, 1110, 1111, 1112, 1113, 1114, 1115, 1116, 1117, 1118, 1119, 1120, 1121, 1122, 1123, 1124, 1125, 1126, 1127, 1128, 1129, 1130, 1131, 1132, 1133, 1134, 1135, 1136, 1137, 1138, 1139, 1140, 1141, 1142, 1143, 1144, 1145, 1146, 1147, 1148, 1149, 1150, 1151, 1152, 1153, 1154, 1155, 1156, 1157, 1158, 1159, 1160, 1161, 1162, 1163, 1164, 1165, 1166, 1167, 1168, 1169, 1170, 1171, 1172, 1173, 1174, 1175, 1176, 1177, 1178, 1179, 1180, 1181, 1182, 1183, 1184, 1185, 1186, 1187, 1188, 1189, 1190, 1191, 1192, 1193, 1194, 1195, 1196, 1197, 1198, 1199, 1200, 1201, 1202, 1203, 1204, 1205, 1206, 1207, 1208, 1209, 1210, 1211, 1212, 1213, 1214, 1215, 1216, 1217, 1218, 1219, 1220, 1221, 1222, 1223, 1224, 1225, 1226, 1227, 1228, 1229, 1230, 1231, 1232, 1233, 1234, 1235, 1236, 1237, 1238, 1239, 1240, 1241, 1242, 1243, 1244, 1245, 1246, 1247, 1248, 1249, 1250, 1251, 1252, 1253, 1254, 1255, 1256, 1257, 1258, 1259, 1260, 1261, 1262, 1263, 1264, 1265, 1266, 1267, 1268, 1269, 1270, 1271, 1272, 1273, 1274, 1275, 1276, 1277, 1278, 1279, 1280, 1281, 1282, 1283, 1284, 1285, 1286, 1287, 1288, 1289, 1290, 1291, 1292, 1293, 1294, 1295, 1296, 1297, 1298, 1299, 1300, 1301, 1302, 1303, 1304, 1305, 1306, 1307, 1308, 1309, 1310, 1311, 1312, 1313, 1314, 1315, 1316, 1317, 1318, 1319, 1320, 1321, 1322, 1323, 1324, 1325, 1326, 1327, 1328, 1329, 1330, 1331, 1332, 1333, 1334, 1335, 1336, 1337, 1338, 1339, 1340, 1341, 1342, 1343, 1344, 1345, 1346, 1347, 1348, 1349, 1350, 1351, 1352, 1353, 1354, 1355, 1356, 1357, 1358, 1359, 1360, 1361, 1362, 1363, 1364, 1365, 1366, 1367, 1368, 1369, 1370, 1371, 1372, 1373, 1374, 1375, 1376, 1377, 1378, 1379, 1380, 1381, 1382, 1383, 1384, 1385, 1386, 1387, 1388, 1389, 1390, 1391, 1392, 1393, 1394, 1395, 1396, 1397, 1398, 1399, 1400, 1401, 1402, 1403, 1404, 1405, 1406, 1407, 1408, 1409, 1410, 1411, 1412, 1413, 1414, 1415, 1416, 1417, 1418, 1419, 1420, 1421, 1422, 1423, 1424, 1425, 1426, 1427, 1428, 1429, 1430, 1431, 1432, 1433, 1434, 1435, 1436, 1437, 1438, 1439, 1440, 1441, 1442, 1443, 1444, 1445, 1446, 1447, 1448, 1449, 1450, 1451, 1452, 1453, 1454, 1455, 1456, 1457, 1458, 1459, 1460, 1461, 1462, 1463, 1464, 1465, 1466, 1467, 1468, 1469, 1470, 1471, 1472, 1473, 1474, 1475, 1476, 1477, 1478, 1479, 1480, 1481, 1482, 1483, 1484, 1485, 1486, 1487, 1488, 1489, 1490, 1491, 1492, 1493, 1494, 1495, 1496, 1497, 1498, 1499, 1500, 1501, 1502, 1503, 1504, 1505, 1506, 1507, 1508, 1509, 1510, 1511, 1512, 1513, 1514, 1515, 1516, 1517, 1518, 1519, 1520, 1521, 1522, 1523, 1524, 1525, 1526, 1527, 1528, 1529, 1530, 1531, 1532, 1533, 1534, 1535, 1536, 1537, 1538, 1539, 1540, 1541, 1542, 1543, 1544, 1545, 1546, 1547, 1548, 1549, 1550, 1551, 1552, 1553, 1554, 1555, 1556, 1557, 1558, 1559, 1560, 1561, 1562, 1563, 1564, 1565, 1566, 1567, 1568, 1569, 1570, 1571, 1572, 1573, 1574, 1575, 1576, 1577, 1578, 1579, 1580, 1581, 1582, 1583, 1584, 1585, 1586, 1587, 1588, 1589, 1590, 1591, 1592, 1593, 1594, 1595, 1596, 1597, 1598, 1599, 1600, 1601, 1602, 1603, 1604, 1605, 1606, 1607, 1608, 1609, 1610, 1611, 1612, 1613, 1614, 1615, 1616, 1

[illegible]

MS 62-1029

**Herzberger, Frederik William, 1859-1930**

Papers, 1892-1930.  
ca. 140 items.  
In Concordia Historical Institute collections (St. Louis)  
In part, transcripts (typewritten)  
Lutheran clergyman and poet. Poems, songs, sermons, biographical  
sketches, obituaries, an oration on George Washington, and photos.  
Open to investigators under repository restrictions.  
Information on literary rights available in the repository.  
Gift of L. W. Hake, 1963.

MS 62-4030

**Rives, Alfred Landon, 1830-1903.**

Papers, 1839-88.  
 1206 items and 5 v.  
 In Duke University Library.  
 Army engineer, Confederate officer, and architect, of Albemarle Co., Va. Primarily Rives' correspondence, relating to his attendance at the Ecole nationale des ponts et chaussées, Paris; his military and civil careers; family matters and social, political, and economic affairs; and the Washington Peace Conference (1861). Includes a diary (1829-31) of Rives' mother, Judith (née Walker) Rives, concerning life in the diplomatic community in Paris, travels in France, and French social life and customs; the Revolution of 1830; U. S. politics; and correspondence, and other papers, of his father, Francis R. Rives, U. S. Representative. Correspondents include Francis R. Rives, Julia Pace Rives, and Edmund Schwebel.  
 (For index in the library.)

MS 62-1031

**McGilvra, John Jay, 1827-1903**

Papers, 1861-1903.  
3 ft. (ca. 3500 items).  
In University of Washington Library.  
Lawyer, U. S. attorney, State legislator, and business promoter.  
Correspondence, 4 letter press copybooks (1878-80), letter briefs, and other papers.  
Contains McDivitt's work as U. S. attorney for Washington Territory, 1861-69, his legislative work in 1869, a business promotion and legal business, and politics in Seattle and McDivitt Burke. The material is related to the library's Caroline McDivitt Burke, Thomas Burke, and Gilman collections.  
Unpublished guide to the library.  
Open to investigators under library restrictions.  
Information on literary rights available in the library.  
Gift of the estate of Thomas Burke, 1965.

MS 62-1032

(註) 『全国史料総合目録 (NUCMC)』より (Berner, *Archival Theory and Practice*, p.139)。記載は各年度の登録順で、MS62-1024とあるのがNUCMC登録番号である。

則をコレクションそのものの整理に使えば、当然、史料を一点一点現物からカード・カタログ化するという方式になる。NUCMCは、そのねらいをこえて図書館学的史料整理方式の固定化に一役買ってしまったのである。

「英米目録規則」*Anglo-American Cataloging Rules*, AACRは、これに一層拍車をかけるものであった。AACRは、アメリカ図書館協会により一九六七年に第一版(AACR1)が、一九七八年に第二版(AACR2)が出されたものであるが、NUCMCと同様なマニュスクリプト・コレクション一件単位の目録規則を含んでいる。AACRに対するバーナーの批判点は多岐にのぼるが、一番の問題は、NUCMC規則と同じく、記述の主たる情報源をコレクションそのものに置き、インベントリーなどの検索手段に置いていない点である。特に、AACR2は、マニュスクリプト・コレクションを含むありとあらゆる図書館所蔵資料の情報を均質化することによって、コンピューターによる図書館ネットワークを促進しようというねらいを持っていたが、マニュスクリプト・コレクションの部分について言えば、インベントリーなどの基本目録に含まれる情報(ここにこそ図書と異なるマニュスクリプト・コレクションの基本的特徴である「史料群の階層構造」をコントロールする鍵がある)を生かす具体的指示が欠けているために、その実効性には決定的な疑問がある、というのである。AACR2に対するこうした批判は議会図書館史料部などからも出され、一九八三年になって、同部から新しい修正版が発表されている(後述)。

## 2 史料整理と検索手段作成の現状

R・C・バーナーの著書を要約する形で、アメリカにおける史料整理と検索手段作成の歴史をたどってきたのであるが、次に、この知識を前提にして、現在の実情がどのようなものであるか、その一端を簡単に紹介したい。

a、「単一統合システム」と「インベントリー」、<sup>(51)</sup>「レジスター」

一九七八年、アメリカ・アーキビスト協会検索手段委員会の年次総会で、次のような合意が得られた。

(1) 近代のマニユスクリプト・コレクションと、組織体（公的機関・民間を問わず）のアーカイブズの「整理と記述法」は、基本的に同じである。すなわち、(a) 史料群各階層への頭脳の接近を自覚的ないし合理的に行なうことが鍵となるべきである。(b) インベントリーが基本的な検索手段であるべきである。

(2) 検索システムの鍵となるのは、インベントリーへの索引である。その機関の所蔵史料全体から検索を行なう場合は、各インベントリーへの累積索引が唯一の索引となる。

要するに、表(4)に示した「単一統合システム」の内、コレクション・レベルのカタログ作成を除く部分が、アーキビスト協会によって公認された形となったのである。同協会は、これに先だち、一九七六年に、インベントリーとレジスターの作成方法と実例を載せた「ハンドブック」を発行している。<sup>(52)</sup>これによれば、「インベントリー」は公文書史料に代表されるいわゆるアーカイブズのレコード・グループに用いられるのに対し、「レジスター」は家や個人の史料に代表されるいわゆるマニユスクリプト・コレクションに用いられるが、基本的な性格は同じである。内容の構成については、次のようなモデルが示されている。

「レジスター」*Manuscript Register*「インベントリー」*Archival Inventory*

## 1 はしがき Preface

## はしがき

## 2 序説 Introduction

## 序説

## 3 略伝 Biographical Sketch

## 機関の歴史 Agency History

## 4 内容解題 Scope and Content Note

## 内容解題（めったに採用されていない）

5 シリーズ記述 Series Description

シリーズ記述

6 箱別リスト Container Listing

箱別リスト(めったに採用されていない)

7 一点別リストおよび索引 Item Listing and

一点別リストおよび索引(めったに採用されていない)

Index(めったに採用されていない)

議会図書館史料部のレジスター<sup>(5)</sup>と、国立文書館のインベントリー<sup>(6)</sup>は、右のモデルとほぼ同一の構成をとっているの  
で、その実例を交えながら簡単に解説しよう。

1、「はしがき」は、印刷目録として出版された場合に、その史料保存機関の検索手段作成の方針、その中のインベントリーやレジスターの位置づけ、さらにはその機関についての簡単な紹介などを記すもので、同一機関であれば各冊同文のものであることが多い。

2、「序説」では、その史料群の名称・量・内容の概要・年代・出所・閲覧制限の有無・著作権の問題等々、利用者に必要な基本的事項が述べられる。事例として資料(7)を見られたい。

3、「略伝」は、個人史料の場合に、その個人の略歴を年表風に記したもので、その史料群がいかなる生活歴や職歴の産物であるかを利用者に知らせる重要な情報源となる。

インベントリーの「機関の歴史」は、レジスターの「略伝」に対応するものであり、公文書史料にとってその重要性は言うをまたない。これに記載すべき最低限の事項として、アーキビスト協会の「ハンドブック」は、①機関の名称、②所在地、③性格と権限、④設立年月日と廃止年月日、⑤機能、⑥記録の特徴と他機関の記録との関係、⑦創立者や機関の長などの重要人物、をあげている。

4、「内容解題」では、最低限、以下の事項が記載されねばならないとされる。①コレクションないしグループに

含まれる、史料群のタイプ、②史料の年代の上限と下限、および主要年代、③史料のジャンルの一覧、④コレクションの長所と短所、内容の特徴と重要性、残存状態とその理由等々、アーキビストとして後世に記録を残すべき調査結果、⑤量の多いコレクションの場合、特に重要な書簡発信者名や事項名・一件ファイル名などの一覧。事例としては、やはり議会図書館史料部のレジスターから、その一部を出してみたので見られたい(資料⑧)。

5、「シリーズ記述」は、レジスターないしインベントリーにおける記述の基本単位であるシリーズ・レベルの史料群について、その内容を簡単に記すもので、次の「箱別リスト」と共に、レジスターないしインベントリーの本体である。各シリーズごとに、次の六項目のことが記載されねばならないとされる。①シリーズ名、②量、③年月日、④史料のタイプ(書簡、報告書、原稿、写真、会計帳簿等々)、⑤整理方式、⑥内容事項。「シリーズ記述」の例としては、国立文書館の予備的インベントリー(資料⑨)と議会図書館史料部のレジスター(資料⑩)の両方をあげておいた。

6、「箱別リスト」は、ボックスないしフォルダー単位の史料リストで、シリーズ記述をさらに詳しくし、検索の便を図るためのものである。資料⑪として一例をあげておいたが、もとのファイリングを大事にしながら、シリーズの中ではたとえばこの例のようにアルファベット順に配列され、内容と年代をごく簡単に列記するに過ぎないものである。「箱別リスト」は、インベントリーでは、史料の量の多さと、記述目的にとつてあまり必要性がないために、ほとんど作成されないということである。

7、「一点別リスト」は、せいぜい千点を越えない小さなコレクションについて作成されるもので、通常は作成されない。「索引」もあまり小さなコレクションの場合は必要ないが、大きい複雑なコレクションの場合は、前述のように、レジスターないしインベントリーの有効な利用の鍵となる。

LIBRARY OF CONGRESS  
MANUSCRIPT DIVISIONThe Papers of  
FELIX FRANKFURTER

The papers of Felix Frankfurter (1882-1965), law professor, author, and Associate Justice of the Supreme Court of the United States, were deeded to the Library of Congress in 1955 by Mr. Justice Frankfurter. The Library received the papers in the years 1967 to 1969. Additions have been made through gift and purchase between 1971 and 1983.

In 1970, Anita Nolen organized the Frankfurter papers and prepared a register which was published by the Library in 1971. In 1972, certain items in the papers were discovered to be missing. Subsequently, some of the missing material was recovered by the Library in photocopied form; these items, marked with an X for identification purposes, have been incorporated into the papers in place of the originals. Other items, known to be missing and not represented by photocopies, are listed in the Appendix to this register. In 1983, additions to the Frankfurter papers through that year were appended to the papers as a final series, and the papers and revised register were prepared for microfilming.

The literary rights in the unpublished writings of Felix Frankfurter in these papers and in other collections of papers in the custody of the Library of Congress have been dedicated to the public.

A microfilm edition of the Frankfurter papers on 165 reels is available from the Library's Photoduplication Service for purchase subject to the Copyright Law of the United States (Title 17, U.S.C.). This microfilm edition may also be requested on interlibrary loan through the Library's Loan Division. Ten reels may be requested at a time for a loan period of one month.

Linear feet of shelf space occupied: 106.2  
Approximate number of items: 70,600

- (註) 『議会図書館所蔵フェリックス・フランクファーター文書目録』の「序説」(Library of Congress, Manuscript Division, *Felix Frankfurter, A Register of His Papers in the Library of Congress, Revised Edition*, Washington, 1984)。フェリックス・フランクファーター(1882-1965)は法学教授、作家、合衆国最高裁判所判事であった人物で、その個人史料の受け入れ経緯、目録改訂の事情、未公開著述の著作権、マイクロフィルム版の購入方法などが記されている。書架延長にして106.2フィート(32メートル余)、約70,600点とある。



## Scope and Content Note

The papers of Felix Frankfurter cover the period from 1846 to 1966, although the bulk of the material begins in 1907. This collection, which Frankfurter considered to be his personal papers, is supplemented by his Supreme Court papers which he gave to the Law School of Harvard University, his correspondence relating to the Sacco-Vanzetti case, also at Harvard, and the documents relating to the Zionist movement, which are at the Hebrew University in Israel. The Manuscript Division has a microfilm copy of the Zionist documents and of some of the Sacco-Vanzetti material. In addition, a considerable amount of material relating to the Supreme Court, much of it in photocopied form, is scattered throughout the collection of personal papers.

The Frankfurter papers consist of diaries, correspondence, subject files, a speech, article, and book file, a legal file, and miscellaneous material. Also included are some papers of William Henry Moody (1853-1917), U.S. Attorney General and Associate Justice of the U.S. Supreme Court. Frankfurter's involvement with significant political and social movements and events and his acquaintance with leaders in many segments of society make his papers a rich source for the study of a variety of topics. The complex character of the man and the general feeling of the times--the Zeitgeist, as he called it--are illuminated through a study of his papers.

In his correspondence, Frankfurter was as likely to expound his philosophy of life and law to a graduate student or an aspiring author as to a distinguished and cherished friend, a fact which makes the correspondence series particularly important. Reading his letters is fascinating in itself and is especially revealing of the temper and texture of his mind. The names of Dean Acheson, Charles C. Burlingham, Frank W. Buxton, Alfred E. Cohn, Herbert Croly, Herbert Feis, Jerome N. Frank, Henry J. Friendly, Learned Hand, Wilmarth S. Lewis, Max Lowenthal, Archibald MacLeish, Reinhold Niebuhr, and Franklin D. Roosevelt are only representative of his numerous correspondents. For his early years as a lawyer in the public service, the correspondence with Emory R. Buckner, beginning in 1907, and Henry L. Stimson, beginning in 1908, is probably the best. The letters from the British scholar Harold J. Laski provide many comments on British and American politics during the period 1915-50. Nearly all of Laski's letters are handwritten. Regrettably, very few copies of Frankfurter's letters to his friend are included in the collection, indicating that most of these were probably also handwritten items of which he kept no copy.

- (註) 『フェリックス・フランクフーター文書目録』(資料(7)に同じ)の「内容解題」の一部(全4頁の内の第1頁)。最初に1846年から1966年までの史料が含まれることと関連史料の所在が記され、次の段落では全体の内容と特徴、第三段落では書簡類のやや詳しい説明に入っている。

20" x 40" copy): a map showing grandstand locations along the inaugural parade route; and print maps of various sections of the 1961 inaugural grandstands.

61. GOVERNORS' PARTICIPATION FILES. Dec. 12, 1964-Jan. 17, 1965. 2 in.

No discernible arrangement.

Press releases, lists of Senate and House Members, lists of Governors, an Inaugural Committee telephone directory, correspondence, and inaugural parade instructions.

62. CORRESPONDENCE RELATING TO NOMINATIONS OF PARTICIPATING UNITS. Nov. 11, 1964-Jan. 8, 1965. 4 in.

Arranged alphabetically by State name.

Correspondence between the Inaugural Committee and the Democratic State chairmen and between the Inaugural Committee and marching unit officials concerning the formal nomination of the units participating in the parade. Included are forms giving the name of each unit, the number of persons in the unit, and the names of contacts.

63. ARMED FORCES PARADE SUBCOMMITTEE RECORDS INCLUDED IN THE FILES OF THE PARADE COMMITTEE. N.d. 1 in.

Unarranged.

Parade photographs taken by the Armed Forces; copy of "Instructions to Parade and Division Control Personnel," January 5, 1965; and lists of participating units of the Armed Forces and their billets.

64. FLOAT PARTICIPATION SUBCOMMITTEE FILES. Nov. 20, 1964-Jan. 21, 1965. 6 in.

Arranged as listed below.

The files are divided into three sections: those relating to float participants, those relating to float builders, and miscellaneous correspondence. The files relating to float participants consist of artists' sketches of floats, copies of correspondence between the executive director and the organization sponsoring a float, mechanical drawing sketches of floats, float contracts, float insurance forms, and blueprints of floats (arranged alphabetically by name of State). The files relating to float builders consist of correspondence, advertisements, photographs, and "Regulations for Float Construction and Float Participation in the 1965 Inaugural Parade" (unarranged). The miscellaneous correspondence concerns the selection of drivers and persons to ride on the floats (unarranged).

Records of the Program and Book Committee

65. SUBJECT FILES. Dec. 9, 1964-Feb. 28, 1965. 6 in.

Unarranged.

Bills, orders, correspondence, press releases, and account statements relating to the inaugural program and the official inaugural book.

66. OFFICIAL INAUGURAL BOOK. 1965. 1/2 in.

Book entitled *Threshold of Tomorrow: The Great Society* (Washington, D.C.: The Inaugural Program and Book Committee of the 1965 Presidential Inaugural Committee, 1965).

67. MISCELLANEOUS RECORDS. Jan. 5, 1965-Mar. 11, 1966. 3 in.

Unarranged.

Mostly transmittal orders with attached correspondence, financial statements, and vouchers; a copy of the inaugural program; a copy of the official guidebook; and an 8- by 10-inch photo of Vice President Hubert Humphrey.

Records of the Publicity Committee

68. TRANSCRIPTS OF PRESS CONFERENCES. Dec. 7, 1964-Jan. 7, 1965. 3/4 in.

Arranged chronologically.

Transcripts of Chairman Dale Miller's press conferences for December 7 and 22, 1964, and January 7, 1965.

69. WORKING FILES. Nov. 24, 1964-Jan. 16, 1965. 1 in.

Unarranged.

Lists of inaugural parties, background memorandums on past inaugural balls, notes concerning a Governors' Reception Committee meeting, a copy of Mrs. Dale Miller's suggested wardrobe for inaugural events, information notes, minutes and memorandums of the Publicity Committee, scripts for television commercials, and lists of newsmen and correspondents.

70. PRESS RELEASES. Nov. 20, 1964-Feb. 25, 1965. 3 in.

Arranged chronologically.

Press releases of the Publicity Committee.

71. PRESS KITS. N.d. 2 in.

Press kits of the Inaugural Committee issued by Samuel C. Brightman, director of publicity. Each kit

(註) 『1965年大統領就任委員会記録予備的目録』の「シリーズ記述」の一部。National Archives and Records Service, *Preliminary Inventory of the Records of the 1965 Inaugural Committee, Record Group 274*, Washington, 1975(SAA, *Inventories and Registers*, p.26)。「61.州知事出席ファイル」「62.(パレード) 参加団体指名関係書簡」「63.パレード委員会記録に含まれる軍パレード小委員会記録」などがそれぞれシリーズにあたる。

## Description of Series

<u>Container Nos.</u>	<u>Reel Nos.</u>	<u>Series</u>
1-4	1-2*	Diaries, 1911-65. 4 containers. Diaries, diary notes, appointment books, and address files kept by Frankfurter, arranged chronologically.
5-18	2-10	Family Papers, 1894-1965. 14 containers. Letters sent and received between family members. Includes a file of Frankfurter's correspondence with his wife and their correspondence with their respective families, each arranged chronologically. A small number of miscellaneous family papers, such as passports and visas, is also included.
19-114	11-69	General Correspondence, 1878-1965. 96 containers. Letters received and copies of letters sent, memoranda, and miscellaneous attachments, alphabetically arranged by correspondent and chronologically arranged within the correspondent's file.
115-124	69-76	Special Correspondence, 1928-65. 10 containers. Frankfurter's correspondence while he was visiting professor at Oxford University, 1933-34, letters received on his appointment and declination thereof to Massachusetts Supreme Judicial Court, his appointment to and retirement from the U.S. Supreme Court, birthday messages, condolences, and get-well greetings, arranged by occasion and alphabetically by correspondent within each file.
125-193	76-123	Subject File, 1846-1965. 69 containers. Correspondence, memoranda, minutes of meetings, newspaper clippings, notes, printed and near-print material, and reports, arranged alphabetically by subject. A partial list of correspondents is included with some of the subjects.

\* Shelf no. 18,868

(註) 『フェリックス・フランクファーター文書目録』(資料7に同じ)の「シリーズ記述」の一部。上から、「日記類」(4箱)、「家族関係史料」(14箱)、「一般書簡類」(96箱)、「特別書簡類」(10箱)、「主題別ファイル」(69箱)の各シリーズの説明がある。左端の番号は箱番号、その右隣りはマイクロ・フィルム番号である。

## 資料(1)

<u>Container</u> <u>Nos.</u>	<u>Reel</u> <u>Nos.</u>	<u>Contents</u>
SPECIAL CORRESPONDENCE, 1907-65 (Continued)		
123 (cont.)	74-75	Condolences on death of Mrs. Frankfurter's mother, 1939-40 (2 folders) Condolences on death of Frankfurter's uncle, 1941 Condolences on death of Frankfurter, 1965 (2 folders) Frankfurter memorial resolutions Letters received concerning <u>Felix Frankfurter</u> <u>Reminisces</u> Mar.-Aug. 1960 (3 folders)
124	75-76	Sept. 1960-64 Messages received during illness, Nov.-Dec. 1958 (5 folders) Messages received during illness, Apr. 1962 (2 folders)
SUBJECT FILE, 1846-1965		
125	76-77	Aaronsburg story, 1949-53 Aaronsohn, Aaron, 1913-37 Agriculture Department, 1933 Amalgamated Clothing Workers of America, 1919-33 (5 folders) Includes: Hillman, Sidney Szold, Robert American Academy of Arts and Sciences, 1932 American Academy of Political and Social Science, 1931 (2 folders) Includes: Patterson, Ernest Minor American Association for Labor Legislation, 1917-32 Includes: Andrews, John B. American Civil Liberties Union, 1919-34 (14 folders) Includes: Bailey, Forrest Baldwin, Roger N. De Silver, Albert
126	77	American Historical Association, 1929-33 (4 folders) Includes: Bond, Carroll T. Greene, Evarts B. Morris, Richard B.

(註) 『フェリックス・フランクファーター文書目録』(資料(7)に同じ)の「箱別リスト」の一部。シリーズ「特別書簡類」からシリーズ「主題別ファイル」に移る箇所である。量が少ない場合は、フォルダー一点一点をリストアップする事例もある。

## b、「単一統合システム」と「カタログ」

「単一統合システム」を全国的な標準システムとして完成させるために残された問題は、コレクション・レベルのカタログ作成を、インベントリー中心の史料整理・検索手段作成方式とどう結びつけるか、ということであった。これについては、AACR2という図書館学的な規則が存在するわけで、その修正なくしては、PATとHMTの最終的融合もありえないのである。

議会図書館史料部は、一九七八年のAACR2発行直後からその問題点を認識し、図書館情報協会・人文学発展基金と合同で、新しい規則の作成を訴えた。そして、同部のステイブン・ヘンセンを中心とする委員会のもとで検討が積み重ねられた結果、一九八三年に『アーカイブズ、個人史料、そしてマニュスクリプト——文書館・歴史協会・図書館史料部のためのカタログング・マニュアル』と題する手引書<sup>(5)</sup>が刊行された。この『手引書』は、AACR2の第四章「マニュスクリプト」の項目に沿い、その内容を修正した形をとっているが、アメリカ図書館協会が関与していないことからわかるように、AACR2第四章の正式な改訂版というわけではない。「まえがき」でも、古い手書き本などのカタログについては、むしろAACR2の適用を勧めている。

「序説」によれば、この新しい『手引書』のねらいは、AACR2が意図したオートメーション・ネットワーク・システム促進のための目録の標準化という方向性を継承しながら、図書館的記述テクニックの修正によって、アーカイブズやマニュスクリプトをこのシステムに組みこみうる独自のフォーマットを開発することにあった。その際、一番重要なのはAACR2に欠けていた文書館学方式との結合という問題である。この観点から、『手引書』は、まず第一に、「史料群の階層構造」という把え方を基本においた上で、この本で取り扱うカタログングの対象を、史料一点一点でなく、史料群の一件一件、すなわちマニュスクリプトのコレクション・レベル、およびアーカイブズのグル

表(5) 図書と史料のカタログ記述比較

	図 書	史 料
記述の対象	一冊の本	コレクション(グループ)
記述の情報源	標題紙・奥付・背など	他の検索手段
(規 則)	(AACR)	(『手 引 書』)

ープ・レベルに限定した(但し、コレクションが一点の史料からなる場合は、一点の史料がコレクション・レベルとして対象となる)。第二に『手引書』は、史料整理と検索手段作成の過程における、シリーズを中心とした史料群単位の集团的記述の重要性を指摘した上で、コレクション・レベル(IIグループ・レベル)の目録作業の役割は、インベントリーやレジスターをはじめ、索引、年次順目録、箱別リスト等々、整理の過程で生まれた様々な検索手段類を(整理業務の最終段階として)統括し、それらに含まれる情報を要約して利用者に提供する点にある、とした。<sup>(56)</sup>

右の二点から、『手引書』は、コレクションおよびレコード・グループのカタログ記述の「主たる情報源」Chief Source of Information<sup>(57)</sup>として、「それらの史料群のために作成された検索手段」を指定した。図書の場合、目録規則が指定する「主たる情報源」は標題紙・奥付・背などであり、そこから書誌的事項がカードに「転写」されてカタログが作成される。しかし史料群の場合、史料群そのものには通常そのような「転写」できない書誌的事項は欠如している。そこで、史料群の分析と整理の産物であり、史料群の名称・年代・量・内容等々の情報を要領よくかつ的確に表現しているインベントリー、レジスターなどの検索手段が、図書の標題紙や奥付にあたる「主たる情報源」と見なされたのである(表(5))。この点がAACR2からの最も大きな変更点であり、この規定によって、「単一統合システム」完成への方が確定したと言えるのではないかと思う。

## 五 電算自動化システムの現状

今回の在外研究では、文書館で稼働中のコンピューター・システムとして、英国文書館のPROSPECシステム、リバプール大学のCMFシステム、米議会図書館のMRⅡシステムを見学した。が、残念なことに、筆者はコンピューターに不案内であり、お伝えできるような成果はほとんどない。従って、ここでは、入手した資料によって、ごく表面的な概観を記すに留めざるを得ない。

### 1 文書館における電算自動化システムの応用分野

マイケル・クックの整理によれば、文書館における電算自動化システムの応用分野としては、次の五つがある。<sup>(24)</sup>

#### (1) 記録管理 record management

記録集中保管施設(レコード・センター)における半現用記録の移管、リスト作成、配架、検索、出納、処分等の管理

#### (2) 文書館史料管理 archival management

①史料整理管理プロセスの制御、②記述とリスト作成、③検索手段の作成システム、④保存庫からの史料または情報の検索、⑤索引作成システム

#### (3) 特別プロジェクト

拡張索引の作成、マイクロフィルム作成や出版のコントロール、史料研究プロジェクトなど

表(6) イギリスにおける文書館電算自動化システムの普及状況  
(1982年, 調査対象機関90機関)

使用分野		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	不 明
導入状況	機関数	記録管理	文 書 館 史料管理	特別プロ ジェクト	機械可読 史料管理	文書館・セン タール運営	
稼 動 中	23	10	10	10	1	1	2
近日導入予定	25	7	14	18	3	5	
導入計画なし	31						
無 回 答	11						

(出典) Rachel Bartle, Michael Cook, *Computer Applications in Archives; A Survey*, 1983, Archives Unit, University of Liverpool

(4) 機械可読記録・史料の管理と利用

(5) 文書館・記録集中保管施設(レコード・センター)運営

利用者統計、史料出納、保存庫スペース制御、消費材在庫管理など

さて、これらの分野で実際にどれくらいオートメーション・システムが使用されているかについて、一九八二年のイギリスの調査がある。これは、国立文書館PROを除くイギリスの主な史料保存利用機関九〇機関を対象に実施されたもので、表(6)に結果をまとめたように、急速に普及しつつあることがわかる。

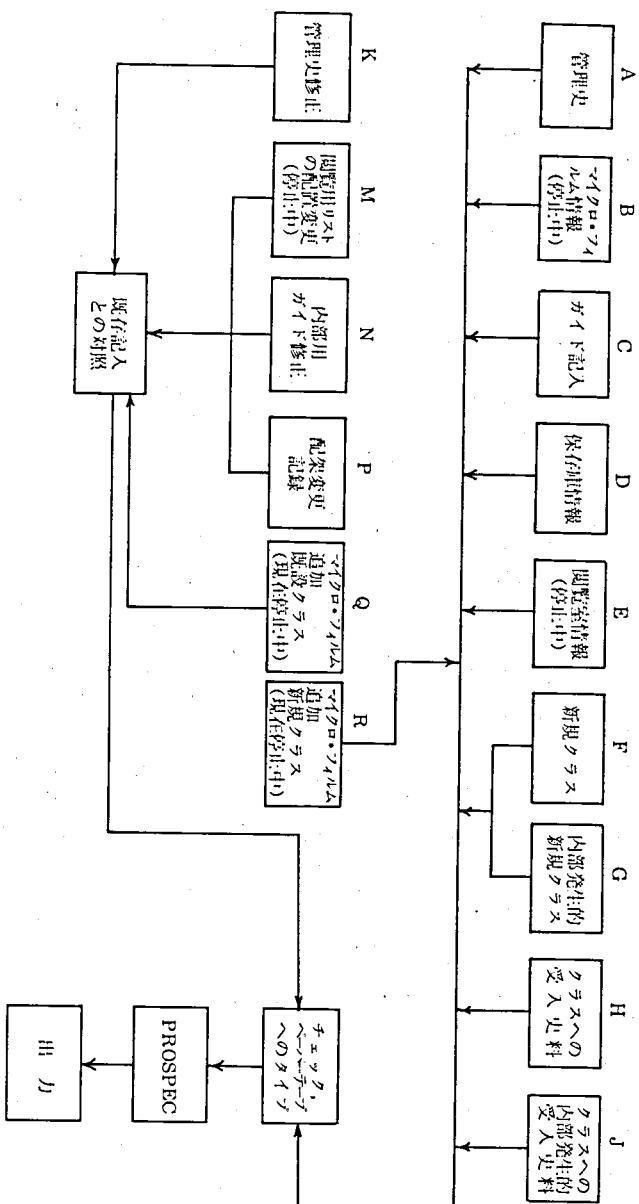
史料の記述と検索のシステムは、各機関が最も力を入れている分野のひとつであるが、ここでは、英国立文書館のPROSPECシステムと、米議会図書館のMRⅡシステムを簡単に紹介したい。

英国立文書館のPROSPEC<sup>(6)</sup>は、電気工学研究所IEEが開発した技術文献抄録情報処理システムINSPECをもとに作られたものである。全所蔵史料をクラス(シリーズ)・レベルでコントロールすることを目的としたもので、クラス・レベル記述を基本とした検索手段編集プログラムと索引作成プログラムを備えている。

表(7)は、PROSPECのデータ収集過程を簡略にまとめたフロー



表(7) PROSPECのデータ収集過程フローチャート  
(Michael Cook, *Archives and Computer*, 79, Fig.14)



チャートである。史料整理業務の進行過程で得られた各種データが館内各部局から集められ、ひとつのデータ・ベースに蓄積される。A～Jは新規受入史料に関するもので、たとえばAやF～Jのデータは近代記録部から、Dのデータ（配架延長や配架位置）は保存庫部から提供される。K～Rは既蔵史料の修正・追加データである。これらのデータは、「ブルー・フォーム」と呼ばれる基本受入用紙に記入されて収集される。

データ入力はクラス（シリーズ）単位に行なわれる。資料②はそのため基本データ・フォームで、次の一〇項目のフィールドからなっている。<sup>(6)</sup>

- 00 クラス・レファレンス（グループおよびクラスのコード）
- 02 最終史料番号
- 03 上限年代
- 04 下限年代
- 05 形態
- 06 クラス表題
- 07 クラス記述（ガイド・ノート草稿）
- 08 索引語
- 09 配架延長
- 10 配架位置

右の内、フィールド08の索引語は、フィールド07のクラス記述の使用語彙の中から選出される。なお、表(7)のAとKにある「管理史」administrative historiesとはそれぞれのクラス・レベル史料群の生みの親である機関・組織の

資料(12)

## PROSPEC MAIN DATA FORM

AAB/1

nbatch/abatch	new batch additional batch	Class Reference	00	ASS1 55
First Piece Number	-	1	Last Piece Number	02
First Date	03	1810	Last Date	04
Physical Nature	05	Volumes		1876
Class Title	06	Northern Circuit Miscellaneous Books		

Class Description (Draft Guide Note)	07
Index Terms	08

Accumulated Foot Run		09						
Location	10	Site	Room	1st Press	Last Press	1st Piece No.		
		--	--	--	--			
EO: RAD	CO: Rep.	AK: MRS	HEO: MRS	CO: MRS				

史料館研究紀要 第一七号

一四〇

略史と記録の管理史を記述するものであるが、クラスにより記述の長さや内容に差があり過ぎるため、電算機蓄積とは切り離して手作業で処理をしている。ただ、管理史記述への索引については、サブ・ファイルを設けて電算出力が可能になっている。

このシステムによって出力されている主要な検索手段として、『国立文書館史料ガイド』*Guide to the Contents of the Public Record Office* や『要覧』*Summary*、それに配架リストなどがある。

次に、米議会図書館史料部のMRⅡ (*Master Record of Manuscripts II*) は、<sup>(29)</sup>同図書館の出版物書誌情報処理システムMARCをベースとして開発されたシステムで、コレクション・レベル(グループ・レベル)の記述と検索を目的としている。このシステムは比較的単純で、まずレジスターを情報源としてコレクション一件ごとのカード・カタログが作成される(資料⑬)。このカード・カタログはMRⅡのデータ・シートとして機能し、これに記載されたデータがMRⅡに入力される。資料⑭は、このシステムによって出力されたものの一例である。なお、資料⑬のカード右欄の索引語は、左欄のコレクション記述(内容解題*Scope and Content Note*)の中から選択されたもので、これらの索引語によるコレクション・レベルへの自動検索が可能になる。

R・C・バーナーは、MRⅡの問題点として、レジスターから直接に索引作成をしていないこと、カード形式をとっているため索引語の記載量に限界があることをあげている。たとえば資料⑬のボナバルト文書の事例では、人名索引としてわずか一五の名前しか拾われていないが、実際には主要な書簡発信者だけでも一〇〇以上の名前がある、というのである。ここから、バーナーは、MRⅡの改良の方向として、レジスターから直接索引作成をすること、またその場合コレクション・レベルへの検索機能だけでは極めて不十分なので、少なくともサブグループ・レベルまで検索できるようにまずレジスター自体を改良する必要があること(議会図書館史料部のレジスターには、サブグルー

(註) 文部省図書資料部の MR II システムのための辞書 *Book Catalogue of the MR II System* (Bernier, *Archival Theory and Practice* p.140)。これは「チャールズ・J・ボナバルト文書」(法学家・政治家, 1760-1921年の史料, 約380,000点) の事例である。

# MASTER RECORD OF MANUSCRIPT COLLECTIONS II

## Wister, Owen, 1860-1938

Papers, 1865-1935. 41,000 items.

Author. Correspondence, diaries, financial papers, speeches, memorabilia, scrapbooks, novels, short stories, essays, notebooks, and pamphlets. Includes original drafts of many of Wister's writings, his dramatizations of *The Virginian*, a group of privately printed pamphlets inscribed to Wister by their authors, and his libretto for *Villon: A Romantic Opera in Four Acts*. Correspondents include Charles Francis Adams, Edward W. Bok, Nicholas Murray Butler, Richard Harding Davis, Fanny Kemble (Wister's grandmother), John Watson Foster, Hamlin Garland, Henry James, William James, Jean J. Jusserand, Rudyard Kipling, Walter Hines Page, Frederic Remington, Theodore Roosevelt, William Howard Taft, and William Allen White.

Finding aid in the Library.

Literary rights of Owen Wister have been dedicated.

Gift of Owen Jones Wister, William R. Wister, and

Frances Kemble Wister Stokes, 1952-53.

78-46177 NUCMC MS59-232

(註) MRⅡの出力例。「オーウェン・ウィスター文書」(小説家, 1865-1935年の史料, 約41,000点)の事例である。

プが確立していない場合がある)などの点を指摘している。<sup>(63)</sup>

## 2 記述と索引作成の自動化の問題点

文書館におけるオートメーション・システム、特に記述と索引作成の自動化の問題点についてバーナーやクックが指摘するところをまとめると、次のようである。

第一に、オートメーション・システムの使用を可能にする条件として、史料群についてのデータが二つの側面で組織的に様式化されていなくてはならない。<sup>(64)</sup>ひとつは物理的な整理基準がきちんと定まっているということ。史料群により箱やフォルダーへの収納方法が異なっていたり、書架配列の方式がバラバラであったのでは話にならない。もうひとつはデータ・シート記入の情報源となる検索手段(すなわちインベントリーやレジスターのような記述体の基本目録)の様式が確立していることである。これは非常に重要な問題である。目録記述の自動化というと、未整理の史料群の史料一点ごとのデータを入力して、基本的な目録編成そのものをコンピューターにやらせるシステムを連想しがちであるが(筆者も初めはそう思っていた)、現在そういったシステムは考えられていないようである。なぜなら、史料の整理と記述の目的はあくまで「史料群の階層構造」の呈示にあるのであり、そのための基本的な作業(すなわち、「出所」と「原秩序」)にもつき史料群の内的連関構造を分析し、発見し、再構成する作業(「arrangement」)は、今のところコンピューターには不可能だからである。従って、この分野でのオートメーション・システムの役割は、あくまで基本的な整理が完了した史料群について、基本目録のデータをもとに種々のガイドやリスト・索引などの編集を自動化し、より効率的な管理・検索手段を提供するところにあるのである。<sup>(65)</sup>史料の整理と記述の目的が、史料一点一点の中味の詳細な情報の提供よりは、むしろ整理の結果としてあらわれてくる「史料群の階層構造」についての

情報の提供にあるという近代文書館学の基本を忘れた時、たとえばフィリス・プラトニックという人が主張したように「史料は一点一点が番号を付けられ、入手した時のままファイルされていさえすれば、整理に時間をかけなくても、詳細な索引データを電算機に蓄積しておくことによって、あらゆる史料を多くの側面から瞬時に検索・利用することが可能になる。」というような乱暴な意見が出てくるのである。<sup>(66)</sup> ここでは、PATとHMTの長い相克の歴史とは一体何のためだったのかわからない。

第二に、基本整理が完了し、右にあげた条件が整ったとして、次には「史料群の階層構造」の重層的な史料群レベルを、電算機でどうコントロールするかという問題がある。PROSPECは、コントロール対象をクラス(シリーズ)・レベルに限定することによって、MRⅡはコレクション(グループ)・レベルに限定することによって、この難問には立ち入らないまま比較的単純なシステムを実現している。これに対し、異なる史料群レベルのデータを同時に処理し、異なるレベルへの検索機能を持つシステムとして、SPINDEXがある。このシステムは最初、米議会図書館史料部で、次いで米国立文書館で開発され、現在は改良型システムSPINDEXⅡおよびⅢが州立文書館などで使用されているようである。「史料群の階層構造」の重層的なレコード・レベルを包括的にコントロールすることが可能な、文書館学方式をフルに生かしたシステムといえるようで大変に興味深いが、詳しくはマイケル・クックの『文書館とコンピューター』を見られたい。<sup>(67)</sup>

第三に、第一の問題と密接に関係するが、索引作成の問題がある。文書館学方式による索引作成は、これまで見てきたようにインベントリーなどの基本目録を効率的に利用するためのものであり、基本目録の記述の中から索引語彙を選択するのが一般的であった。しかし、文書館学の整理さえきちんとしておけば、目録ではなく史料そのものの分析から多数の索引語彙を引き出してコンピューターに入力しておいた方が、多様で複雑な主題(件名)検索要求にも



より効率的な対応が可能になるのではないか、という考えが生まれるのは当然である。それに対して、必ずしもそう  
は言えないということを実験で示したおもしろい論文がある。スミソニアン機構のアーキビスト、リチャード・H・  
ライトルが一九八〇年に発表した二本の論文<sup>(8)</sup>がそれで、バーナーの要約を参考にしながら簡単に紹介したい。

ライトルの実験は、バルチモア大学地域制度研究センター(BRISC)が所蔵する史料を使い、二種類の主題検  
索方式を実際に試してみ、両者の有効度を比較研究したものである。第一の主題検索方式は、「Pメソッド(出所  
方式)」「provenance method」と名づけられたもので、すでにおなじみの文書館学的方式だと思えばよい。つまりある  
質問事項に関する史料ファイルを検索するのに索引語彙から直接史料の現物に向かうのではなくて、いったんインベ  
ントリーなどの基本目録に戻り、その中に記述された史料群の出所関連情報(たとえば「機関の歴史」の記述に豊富  
に含まれるところの)を最大の手がかりに、「史料群の階層構造」全体を見渡しつつ、目的のファイルに接近してい  
くという方法である。この方法のための索引語彙は、あくまでインベントリーやガイドに載っている解題的記述や、  
シリーズ表題、ファイル表題などから選択される。これに対し、第二の方法は、「CIメソッド(内容索引方式)」「  
content indexing method」と名づけられたもので、史料そのものの内容分析にもとづいて索引語彙を引き出し、この  
索引を利用して直接史料ファイルの現物を検索するという方式である。図書館学的な考え方に根ざした索引作成方式  
と言つてよい。

実験対象となつたのはバルチモア市の都市関係史料で、バルチモア市企画部史料や大バルチモア委員会史料など一  
五のコレクションが選ばれた。あらかじめ一五の質問事項が用意され、四人の検索担当者が「Pメソッド」と「CI  
メソッド」でそれぞれ二回ずつ、関連すると思われる史料ファイルをコレクション群の中から選び出すのである。そ  
の際使われた検索手段は、「Pメソッド」ではコレクション記述とファイル・リストよりなる比較的簡単な目録、「C

「Iメソッド」では、「都市情報ソーラス」を用いて作成されたデータ・ベースから打ち出された電算出力印刷索引であった。

この作業の結果、検索されたファイルは合計八九七。これを、五人の利用者と一人の判定者（社会学者）が質問事項とどの程度関連する史料ファイルであるかを採点するのである。結論のめいえは、「Pメソッド」も「CIメソッド」も共に成績は芳しくなかったというのであるが、「Pメソッド」の成績の悪さは目録の精度があまりよくなかったため、ある程度予想されたことながら、電算システムを駆使した「CIメソッド」が「Pメソッド」と同程度の成績しか残せなかったことは予想外であったという。その最大の原因として、ライトルは、「CIメソッド」は索引語彙の中に質問事項と合致するものがある場合は高い確率で関連史料のファイルを検索できるが、そうでない場合にはたちまち困難に陥ることをあげている。従って「CIメソッド」の有効性を高めるためには、索引作成者が利用者の要求事項を的確に予想し、精度の高いソーラスを準備することが是非とも必要になる。また、研究状況の変化などに対応するためには常に索引語彙の改訂を考えなければならない、というのである。これに対し、「Pメソッド」はいかにも手仕事のアーキビストの介助があつてこそ本当の力を発揮できるものであるが、インベントリーなど検索の中心となる基本目録の質を高めることによって、むしろ「CIメソッド」よりも高い有効性を期待できるものである、とライトルは結論している。

バーナーも、この実験結果に注目し、史料の索引作成にあたってはあまり軽々しく史料の内容分析に飛び込むのではなく、史料群単位の記述情報（バーナーは特にサブグループ・レベルの情報を重視する）を史料検索の鍵として有効に活用することを勧めている。あまり道案内がこまごまと詳し過ぎるとかえって目標を見失う、道案内はあくまで全体の概観を示すのが第一の目的なのであり、細かいところについては利用者の推論や考察の余地をある程度広く残

しておくほうがむしろ迅速かつ正確に目標にたどりつきやすいというのである。バーナーはこのことから「Pメソッド」は基本的に「推論システム」= *an inferential system*であると規定している<sup>(70)</sup>。

文書館における自動化の波は、確かに欧米においてはすでに否定しがたい大きなうねりとなっているが、右にみたように、その中にあっても文書館学の基本原則を損なわないための慎重な配慮は常になされているのである。「自動化システムの採用を急ぐよりも、自動化すべき手作業システム（検索手段作成の理論と技法）を確立することが先決である。」<sup>(71)</sup>というバーナーの言葉に十分耳を傾ける必要があるように思われた。

## 六 おわりに

今回の在外研究は、筆者にとってはじめての海外体験であったし、何よりも欧米史料についての基本的知識の欠如ゆえに、欧米の史料保存利用機関の仕事をどれだけ正確に理解できたか甚だ不安である。まちがいに気づかれたらぜひ御教示願いたい。

本稿はあくまで欧米の文書館学の理論と技法の一端を紹介する目的で書かれたものであるから、日本における史料整理と検索手段作成の現状や問題点には全く触れなかった<sup>(72)</sup>。しかし、数多くの側面で、我々の立ち遅れは明白である。もちろん外国の理論と技法をただ導入すればよいという問題ではないが、世界の大多数の国が文書館国際評議会ICAを中心として文書館学の発展と標準化に努め、国際的な交流の中で史料の保存と利用を進めようとしている以上、我々は諸外国の経験と現状に謙虚に学びながら、日本の「文書館学」を作っていかなければならないと思う。

それにしても、今回の在外研究で得た一番大きな成果は、史料の保存と利用に情熱を傾ける多くのアーキビストに会い、彼／彼女らが高い技能を持った実務家であると同時に、文書館学の発展に意欲を燃やす優れた研究者でもあることを知ったことであった。安澤秀一氏は、「史料館Ⅱ文書館学とは史料保存利用施設において史料の整理管理と保存管理の全てに役立つ学問的実際の知識を体系化する学際的研究をいう。」と定義しているが、もうひとつ言えば、文書館学とは、史料を人類の歴史文化遺産として現代と未来の社会に真に生かす道を、科学的に探る学問である。そしてその中心を担っているのが、アーキビストなのである。

日本の「文書館学」の確立のために、いまプロフェッショナル・アーキビストを目指す優れた人材が一人でも多く求められていることを痛感する。<sup>(2)</sup>

#### 注

(1) なお、安澤秀一「第一〇回史料館国際会議ボン一九八四と研修セミナー」(国立史料館『史料館報』第四二号、一九八五年三月、同氏著『史料館・文書館学への道―記録・文書をどう残すか―』、吉川弘文館、一九八五年一月、に再録)、菅野弘夫・小林蒼海「第十回国際公文書館大会報告」(国立公文書館『北の丸』第17号、一九八五年三月)をも参照されたい。

(2) Michael Cook, *Archives Administration: A Manual for Intermediate and Smaller Organizations and for Local Government* (Folkestone, Wm Dawson & Sons Ltd., 1977).

(3) 「記録センター」record centre とは、永久保存史料として文書館に移される前の半現用記録を集中的に保管する施設で、通常、文書館がこれを管理し、行政庁や企業の原因における記録管理 record management システムと文書館システムをつなぐ重要な役割を果たしている。今回の在外研究では、この記録センターの見学も柱のひとつであったが、本稿では触れる余裕がなかった。なお記録センターの組織や機能については次の文献がある。

A. W. Mabbs with the collaboration of Guy Duboscq, *The organization of intermediate records storage* (Paris, Unesco, 1974).

また一企業の社内出版物だが、次のものには記録センターの機能が非常にわかりやすく書かれている。

*British Steel Corporation Regional Record Centres*  
(A Handbook Issued by the Archives Section, London, 1974).

- (4) 訪問先のうちドイツとフランスについては紹介できないが、ドイツの文書館学については、城戸毅「Adolf Brenneke, *Archivkunde*について」(岩倉規夫・大久保利謙編『近代文書学への展開』、柏書房、一九八二年)があり、欧米文書館学への有効な手引きとなっているので、ぜひ参照されたい。またフランスにおける史料の整理と記述の問題に比較的詳しいのは、次の文献である。ジャン・フヴィエ著、永尾信之訳『文書館』(文庫クセジュ、白水社、一九七〇年)、加藤栄一「ヨーロッパの文書館——フランスの文書館システムを中心に——」(歴史科学協議会編『歴史科学への道』上、校倉書房、一九七六年)、渡辺節夫「フランスの文書館制度と地域史研究」(『歴史評論』三八九、一九八二年九月)。なお、これらのほかに、諸外国の文書館について詳しい資料は、市販されたものではないが、国会図書館「公文書館制度研究会調査資料」と内閣総理大臣官房総務課「公文書保存制度等調査連絡会議資料」がある。

- (5) 諸外国の文書館学研究文献については文書館国際評議会

が出した次の文献目録が詳しい。

*International Council on Archives, Basic International Bibliography of Archive Administration*  
(*Archivum*, XXV, 1978).

なお、安澤秀一「史料保存利用施設の国際環境——史料館Ⅱ文書館学序論のための覚書」(国立史料館『史料館研究紀要』第一六号、一九八四年九月)にフランク・B・エヴァンス氏作成の基本文献目録が載って、便利である。

- (9) F. B. Evans, D. F. Harrison, E. A. Thompson (comp.), W. L. Rofes (ed.), "A Basic Glossary for Archivists, Manuscript Curators, and Records Managers", *The American Archivist*, 37 (The Society of American Archivists, July 1974), 417.

- (7) Richard C. Berner, *Archival Theory and Practice in the United States*; A Historical Analysis (Seattle, University of Washington Press, 1983).

- (8) T. R. Schellenberg, *The Management of Archives* (New York, Columbia University Press, 1965).

- (6) International Council on Archives, *Dictionary of Archival Terminology* (ICA Handbooks Series Vol. 3, 1984).

- (10) Schellenberg, *Management*, p. 90.

- (11) ICA, *Dictionary*, p. 130.

- (21) Schellenberg, *Management*, p. 100.
- (22) ICA, *Dictionary*, p. 143.
- (23) 本記述は T. R. Schellenberg, *Modern Archives ; Principle and Techniques* (Chicago, the University of Chicago Press, 1956, Midway Reprint 1975), pp. 168-179, 244-248.
- (24) S. Muller, J. A. Feith, R. Fruin, *Handleiding voor het ordenen en beschrijven van archieven* (1898, Trans. A. H. Leavitt, *Manual for the Arrangement and Description of Archives*, New York, 1968). 筆者未見。
- (25) Hilary Jenkinson, *A Manual of Archive Administration* (London, 1922, 3rd Edit., Percy Lund, Humphries & Co. Ltd., 1965).
- (26) Schellenberg, *Management*, pp. 91-94.
- (27) Jenkinson, *Manual*, pp. 83-123.
- (28) Michael Cook, *Archives and the Computer* (London, Butterworth & Co. Ltd., 1980), p. 22 ; ICA, *Dictionary*, ほか。
- (29) 「コレクション」は、このように「家わけ」の文書群を指すことが多いため、本稿では「人為的な蒐集史料 artificial collection は「蒐集コレクション」と記して区別した。

史料整理と検索手段作成の理論と技法 (安藤)

- (21) ICA, *Dictionary*, p. 434.
- (22) Berner, *Archival Theory and Practice*, p. 10.
- (23) イギリスの史料保存利用制度の沿革と史料保存利用施設の概略については、城戸毅「イギリスの古文書保存制度と吾が国の公文書館問題」(『史学雑誌』第七五編第四号、一九六六年四月)、鶴川馨「イギリスの文書館——地方文書館を中心として——」(『地方史研究』八五、第一七卷一号、一九六七年二月)、安澤秀一「イギリスの地方文書館とアーキヴィスト養成制度」(『地方史研究』一六四、第三〇卷二号、一九八〇年四月)、同「イギリスの文書館法とアーキヴィスト協会」(『地方史研究』一八八、第三四卷二号、一九八四年四月) などがある(安澤氏の二論稿は共に同氏『史料館・文書館学への道』、吉川弘文館、一九八五年、に再録)。
- (24) 近代以前のイギリス史料の概要については、米川伸一「封建制期イギリスを中心とした史料——そのあり方と刊行史」(『西洋経済史講座』第一巻、岩波書店、一九六〇年)、同氏著『イギリス地域史研究序説』(未来社、一九七二年)、第八章地方史料刊行物の紹介、三好洋子「イギリス中世社会研究のための諸文書について」(『古文書研究』第一三三号、一九七九年六月)などを参照されたい。
- (25) *The Public Record Office* (January 1984).
- (26) East Sussex County Council, *Report of the Coun-*

- by *Records Officer for the Year 1963* (February 1964)  
; J. A. Brent, *East Sussex Record Office ; A Short Guide* (East Sussex County Council, 1963).
- (26) Bodleian Library, Oxford, *A Guide for Readers of Western Mss.* (August 1978); Bodleian Library, *Statistical factsheet no. 6* (January 1984).
- (27) 注 (16) 参照。
- (28) 注 (2) 参照。
- (29) International Council on Archives, *Proceedings of the VIIth International Congress on Archives (Archivum, XXIV, 1974)*, pp. 75-150.
- (30) 安藤正人「文書館学ニフォーキビスト養成への取り組みを——第10回文書館国際会議に参加して——」(『歴史学研究』五四六号) 一九八五年一〇月。
- (31) Jenkinson, *Manual*, p. 101.
- (32) *Ibid.*, p. 103.
- (33) Cook, *Archives Administration*, p. 109.
- (34) ICA, *Proceedings of the VIIth International Congress on Archives (Archivum, XXIV)* pp. 108-109.
- (35) Cook, *Archives Administration*, p. 110.
- (36) *Ibid.*, pp. 110-111.
- (37) *Ibid.*, p. 118.
- (38) *Ibid.*, pp. 118-119.
- (39) Felix Hull, *Handist of Kent County Council Records, 1889-1945* (Maidstone, Kent County Council, 1972). この目録はハンドリストという表題がつけられるが、後述の(3)ハンドリスト(事項別・形態別簡略目録)とは違っている。
- (40) Cook, *Archives Administration*, p. 122.
- (41) 注 (25) 参照。
- (42) オックスフォードシャー州立文書館『個人寄託史料概要目録』(注 (45) 参照) に掲載の同館出版物目録による。
- (43) *Indexes to Schedules ; Introduction* (Department of Manuscripts and Records, The National Library of Wales, 1978).
- (44) Cook, *Archives Administration*, pp. 125-127.
- (45) *Summary Catalogue of the Privately-Deposited Records in the Oxfordshire County Record Office (Clerk of the County Council, 1966)*.
- (46) 注 (7) 参照。本節(四一)はほぼ全面的に本書に依っているが、いまだ引用箇所を注記しない。
- (47) アメリカの史料保存利用制度の沿革と史料保存利用施設の概略については、金井圓「アメリカ合衆国における国立文書館制度の発展」(『古文書研究』第二号、一九六九年二月、岩倉規夫・大久保利謙編『近代文書学への展開』に再録)、同「米国における公文書館制度の沿革」(国立公文

書館『北の丸』第一二号、一九八〇年三月）などがある。

(48) 注(14) 参照。

(49) Schellenberg, *Management*, notes no. 109, pp. 354-355. 21 覧表がある。

(50) Kenneth W. Duckett, *Modern Manuscripts : A Practical Manual For Their Management, Care, and Use* (Nashville, American Association for State and Local History, 1975).

(51) Berner, *Archival Theory and Practice*, p. 8.

(52) Society of American Archivists, *Inventories and Registers : A Handbook of Techniques and Examp-les* (A Report of the Committee on Finding Aids, Chicago, Society of American Archivists, 1976).

(53) 議会図書館史料部は約一万件のコレクションを保有し、その総点数は四千万点を超える。ほぼ一九五〇年から作成が開始されたレジスターは、現在その総数約一五〇〇冊を数える。以上は、同部のリーフレッシャー *Reference Aids to Manuscript Collections in the Library of Congress* による。

(54) 国立文書館は現在約一三〇万立方フィート（書架延長に換算すると約三三〇キロメートル）にのぼる膨大な連邦政府文書を保有し、これらは四〇〇以上のレコード・グループに分かれている。インベントリはレコード・グループ

単位ないしサブグループ単位に作成されるが、予備的インベントリー preliminary inventory と最終的インベントリー final inventory (単にインベントリーともいう) がある。主体は前者で、一九八二年現在一九五冊が刊行されている。後者はわずか一冊が刊行されているだけである。ほかに特別リスト special list があり、四四冊が刊行されている。以上の情報は『Select List of Publications of the National Archives and Records Service (General Information Leaflet, No. 3, General Services Administration, 1982)』から得た。

(55) Steven L. Hensen, Manuscript Division Library of Congress comp., *Archives, Personal Papers, and Manuscripts : A Cataloging Manual for Archival Repositories, Historical Societies, and Manuscript Libraries* (Washington, D. C., 1983).

(56) *Ibid.*, pp. 1-4.

(57) *Ibid.*, p. 8.

(58) Cook, *Archives and the Computer*, pp. 14-15.

(59) Rachel Bartle, Michael Cook, *Computer Applications in Archives : A Survey* (British Library Research and Development Department Report No. 57 49, University of Liverpool, Archives Unit, January 1983).



- (60) Cook, *Archives and the Computer*, pp. 76-83.
- (61) クックの本によれば「11番目のフイーネンエム」は「閲覧手段」があるが(*Ibid.*, p. 78) 停止中であると思われる。
- (62) Berner, *Archival Theory and Practice*, pp. 87-90.
- (63) *Ibid.*
- (64) *Ibid.*, pp. 85-86.
- (65) PROマイケル・ローバーが、文書館で開発に専念すべきは「電算機依存システム computer-based system ではなく、伝統的方式での、電算機介助型検索システム computer-assisted finding aid system」だと語っている。そのことについて Michael Roper, "New information technology and archives", *Unesco journal of information science, librarianship and archives administration*, Vol. IV (1982), 107-113.)。
- (66) Berner, *Archival Theory and Practice*, p. 72.
- (67) Cook, *Archives and the Computer*, pp. 85-91.
- (68) Richard H. Lytle, "Intellectual Access to Archives : I. Provenance and Content Indexing Methods of Subject Retrieval", *The American Archivist*, Vol. 43 (Winter 1980), 64-75 ; "Intellectual Access to Archives : II. Report of an Experiment Comparing Provenance and Content Indexing Methods of Subject Retrieval", *The American Archivist*, Vol. 43 (Spring 1980), 191-207.
- (69) Berner, *Archival Theory and Practice*, pp. 70-72.
- (70) *Ibid.*, p. 72. なお、マイケル・ローバーが注(65)であげた論文で伝統的方式による電算機介助型検索システムの開発を推奨しているのは、タイトル論文を一根據にしているものである。
- (71) *Ibid.*, p. 114.
- (72) 本号大藤修論文を見られた。また筆者も別に「近世近代地方文書研究と整理論の課題——『文書館学』の立場から——」(『日本史研究』二八〇号、一九八五年二月)と題する論文を発表したので参照されたい。
- (73) 安澤「史料保存利用施設の国際環境」、六一頁。
- (74) すでにわが国においても「全国歴史資料保存利用機関連絡協議会(全史料協)」や、「企業史料協議会」があつて、史料の保存と利用についての専門的研究や知識・情報の交換を行なっている。特に、筆者もその一員である「全史料協」では、一年前から関東部会が毎月、月例研究会と外国文献輪読会(文書館学研究会と称している)を開いて、日本の「文書館学」への道を模索している。お問い合わせは、浦和市高砂4-3-18 埼玉県立文書館内「全史料協」事務局(電話〇四八八-六五〇-一一二)または港区海岸1-13-17 東京都公文書館内「全史料協関東部会事務局」(電話〇三-四三三-八二六一(内線)三二一水口)まで。

〔付記〕 本稿は全史料協関東部会第一一回月例研究会での報告「史料整理と検索手段作成の理論と技法——欧米および日本の現状と問題点——」（一九八五年五月二二日、於横浜開港資料館）をもとに執筆したものである。なお、小川千代子氏、安澤秀一氏より文献の提供を受けたことを記し、感謝したい。